

第4回URAシンポジウム&第6回RA研究会

「私大セッションについて」

2014. 9. 18 10:15-11:45

北海道大学学術交流会館第4会議室

S-15 関西大学 角谷賢二

私立大学ではURAは可能か？

- * URAの組織化は進めたいが、資金がない。
- * 研究力も高めたいが、従来の伝統の壁を破れない。
- * 産学連携の組織がすでに存在し、そことの連携が難しい。
- * 研究者は1匹オオカミ的存在で連携が苦手である。さらに、URAの下手な口出しは、好まれない。
- * 私立大学では、経営のほとんどの資金を学生の授業料から引き出している。資金は、学生の大切なお金である。そんなお金がURA採用のため使うことができるか？

平成26年度学校基本調査 (速報値)(文部科学省)

	大学数	教員数	学生数
国立	86	64,252	612,147
公立	92	13,015	147,981
私立	603	103,615	2,094,821
合計	781	180,882	2,854,949
私大率	77.2%	57.3%	73.4%

セッションのテーマ

「私大の研究力強化への新たな取組」

～国公立との違い、私大だからできるユニークな取組～

概要

- * 日本の大学の77%、大学生の73%を擁する私立大学は、日本の高等教育の不可欠な存在です。また、大学の使命の一つである「研究」の活性化を推し進め、イノベーションの芽を育む研究力を強化することが強く求められており、そのためには研究者がより研究活動に専念できる研究推進支援体制を整備することが重要です。
- * このセッションでは幾つかの私立大学における独自の研究推進体制、URA組織、その活動などを紹介し、有識者からの俯瞰的なコメントも頂きながら、私立大学の研究力強化への期待、ユニークな取組等について議論します。このセッションが多くの機関にとっての研究推進支援体制の構築、個々のURAの資質の向上の一助になれば幸いです。

「私大の研究力強化への新たな取組」

～国公立との違い、私大だからできるユニークな取組～

私大セッション

【日時】2014年9月18日(木)午前 (10:15～11:45 90分間) 予定

【場所】北海道大学学術交流会館 会議室 (50人規模)

【オーガナイザー】RAネットワーク設立準備委員会メンバー

関西大学:角谷賢二(学長室シニアURA)

東海大学:田中好雄(研究計画課長)

【セッション運営コーディネーター】RAネットワーク設立準備委員会メンバー

早稲田大学:丸山浩平(研究戦略センター准教授)

同志社大学:石田貴美子(研究開発推進機構URAセンター学術研究員/URA)

【パネリスト】

①東京理科大学:名久井恒司(研究戦略・産学連携センター研究・産学連携支援部門長)

②立命館大学:中谷吉彦(産学官連携戦略本部副本部長・教授)

③早稲田大学:松永 康(研究戦略センター教授)

④同志社大学:石田貴美子(研究開発推進機構URAセンター学術研究員/URA)

⑤関西大学 :角谷賢二(学長室シニアURA)

⑥東海大学 :田中好雄(研究推進部研究計画課長)

私大セッションの進め方

1. 私大セッション開催の意義 :10分

「私立大学におけるURA・研究推進部門&人材の現状と課題」
セッション発起人を代表して:角谷賢二、丸山浩平

2. 各私大の発表(パネリスト6名の事例紹) :50分

内訳:プレゼンテーション :7分
交代時間 :1分

(持ち時間8分で6件)

3. パネリストとの討論 :30分

私立大学の研究力強化のため多様な研究推進支援体制と
URA人材・実務者のスキルアップ等々の議論(教職RA協働)

何のために？

- * 私立大学において、今後さらに研究力を伸ばし続けるために！
- * 私立大学が大学間で連携するために！

URA活動を通して 私大セッションのゴール

- * 私立大学の研究力を強化すること
- * 私立大学の改革（経営力強化・組織改革/職員力強化等）を推進に資すること
- * そのために私立大学においてURAを置く大学が増えること

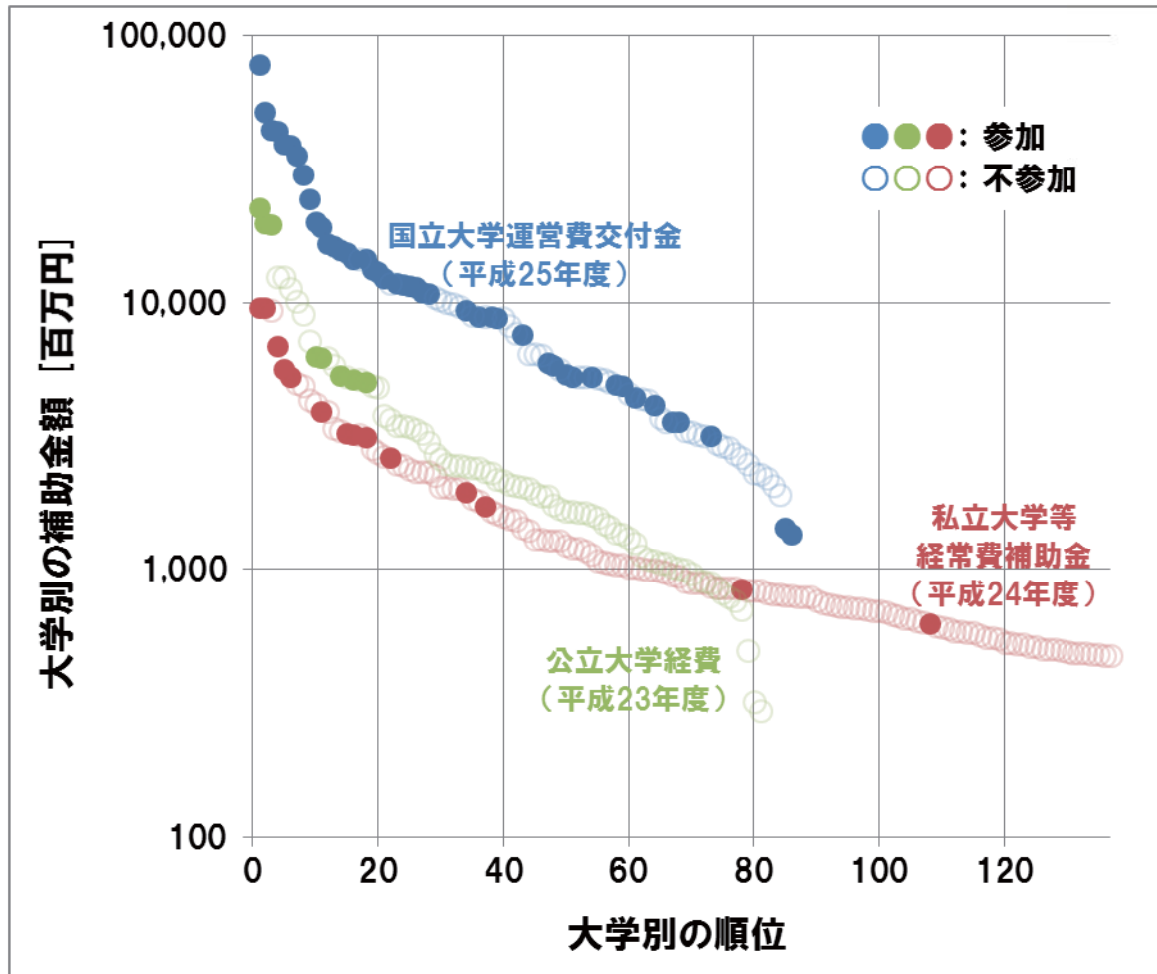
ディスカッションに向けた セッションのモチベーション整理

ファシリテーター
早稲田大学 丸山浩平

平成26年度学校基本調査(速報値)(文部科学省)

	大学数	教員数	学生数
国立	86	64,252	612,147
公立	92	13,015	147,981
私立	603	103,615	2,094,821
合計	781	180,882	2,854,949
(私大率)	(77.2%)	(57.3%)	(73.4%)

昨年度のURAイベント(@京大)参加の私立大学



<私大の参加大学>

- ・ 慶應義塾大学
- ・ 早稲田大学
- ・ 東海大学
- ・ 立命館大学
- ・ 順天堂大学
- ・ 東京女子医科大学
- ・ 関西大学
- ・ 東京理科大学
- ・ 中央大学
- ・ 同志社大学
- ・ 龍谷大学
- ・ 兵庫医科大学
- ・ 佛教大学
- ・ 多摩美術大学
- ・ 星薬科大学

国立大学 86 機関のうち 45 機関 (52.3%)

公立大学 83 機関のうち 8 機関 (9.6%)

私立大学 560 機関のうち 16 機関 (2.9%)が参加し、比較的経費の大きな大学が参加。

私立大学の特徴(一般)

	国立大学	私立大学
長所	<ul style="list-style-type: none">• 学費が安い• 学生が使える研究費が私立とは比べ物にならない程多い• ゼミや研究室の人数が少ないので丁寧に研究を教えてくれる	<ul style="list-style-type: none">• 校風が自由・個性的• 校舎が優美、土地面積が大きい• 有名な教授がいる、学生に著名人がいる• 卒業生が多いのでコネが効く• 学生数が多いのでクラブ・サークル活動が盛ん、様々な考えの人に出会える
短所	<ul style="list-style-type: none">• 画一的• 交通の便が悪い、立地条件は悪い• 校舎は簡素な造りのものが多い• 卒業生数が少ないため社会に出たときのコネがない	<ul style="list-style-type: none">• 学費が高い• 学生が使える研究費が国立よりも少ない(高度な研究が出来ない)• ゼミ(研究室など)の人数が多く、親密に教えてもらえない

私立大学における学術研究の特徴(一般)

	国立大学	私立大学
研究者の分野の分布	理工、医学系が大きい部分を占めている(有力な国立大学)	圧倒的に人文・社会科学分野の研究者が多い
分野毎の研究者密度	密度高い	密度低い(研究拠点の形成は難しい)
研究施設・設備	充実	簡素
学術論文の発表	発表多い	発表少ない
競争的資金の獲得	獲得多い	獲得少ない

機関種別の論文産出の変化

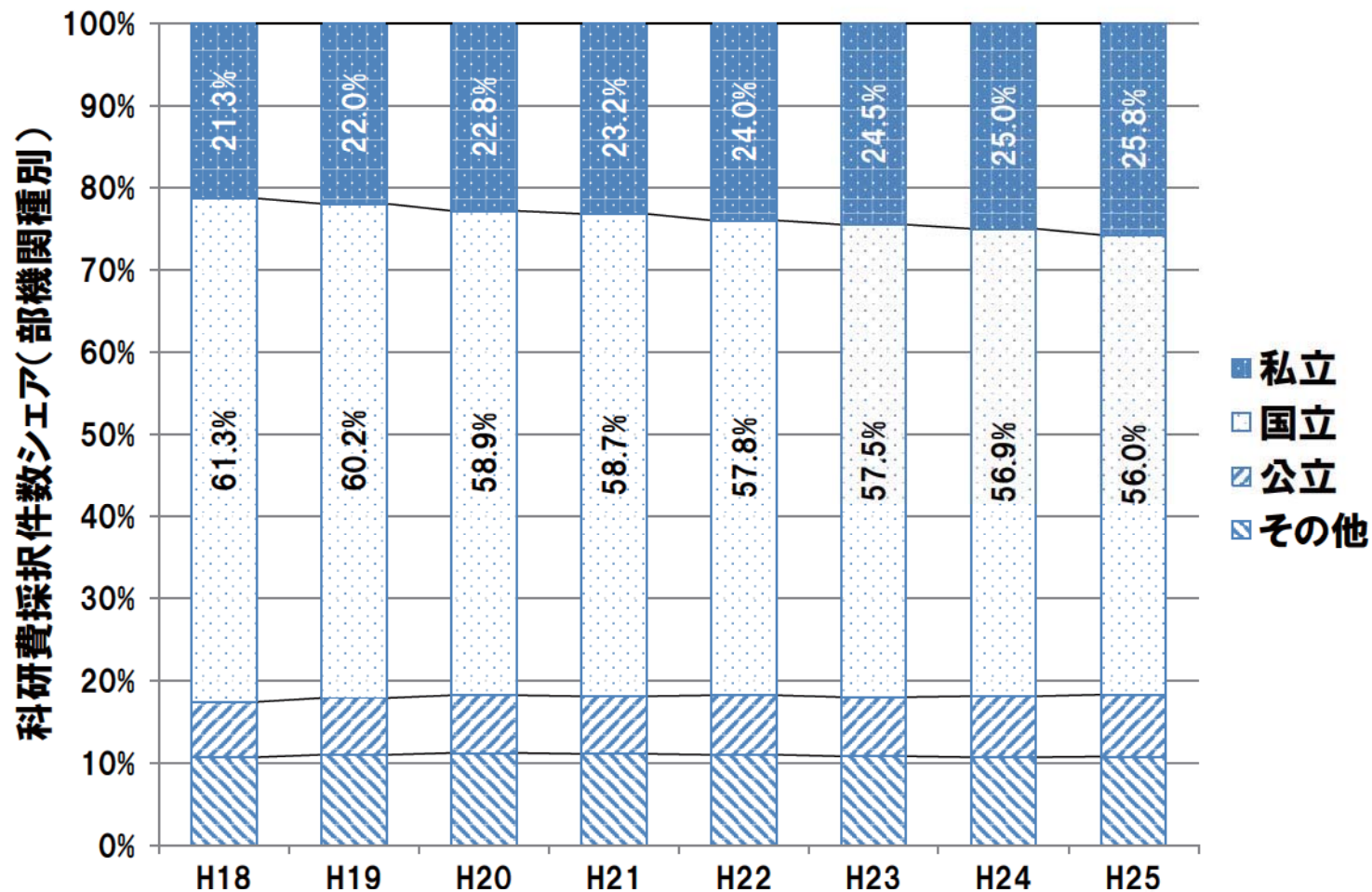
全分野	論文数(3年平均値)			前半5年の伸び(1999-2001年基準)	後半5年の伸び(2004-2006年基準)
	1999-2001	2004-2006	2009-2011		
国立大学	33,708	34,066	31,651	1%	-7%
私立大学	10,116	10,549	10,915	4%	3%
独法	4,550	6,354	6,043	40%	-5%
企業	6,538	5,282	4,380	-19%	-17%
日本全体	66,766	68,241	65,218	2%	-4%

(注) 分数カウント法による。

出展： 阪 & 桑原、「科学研究のベンチマーキング2012-論文分析でみる世界の研究活動の変化と日本の状況-」、文部科学省 科学技術政策研究所、2013年 3月

国立大学が論文産出のメインプレーヤーであるが、論文数が減少している。
一方、**私立大学は論文数が増え続けている。**

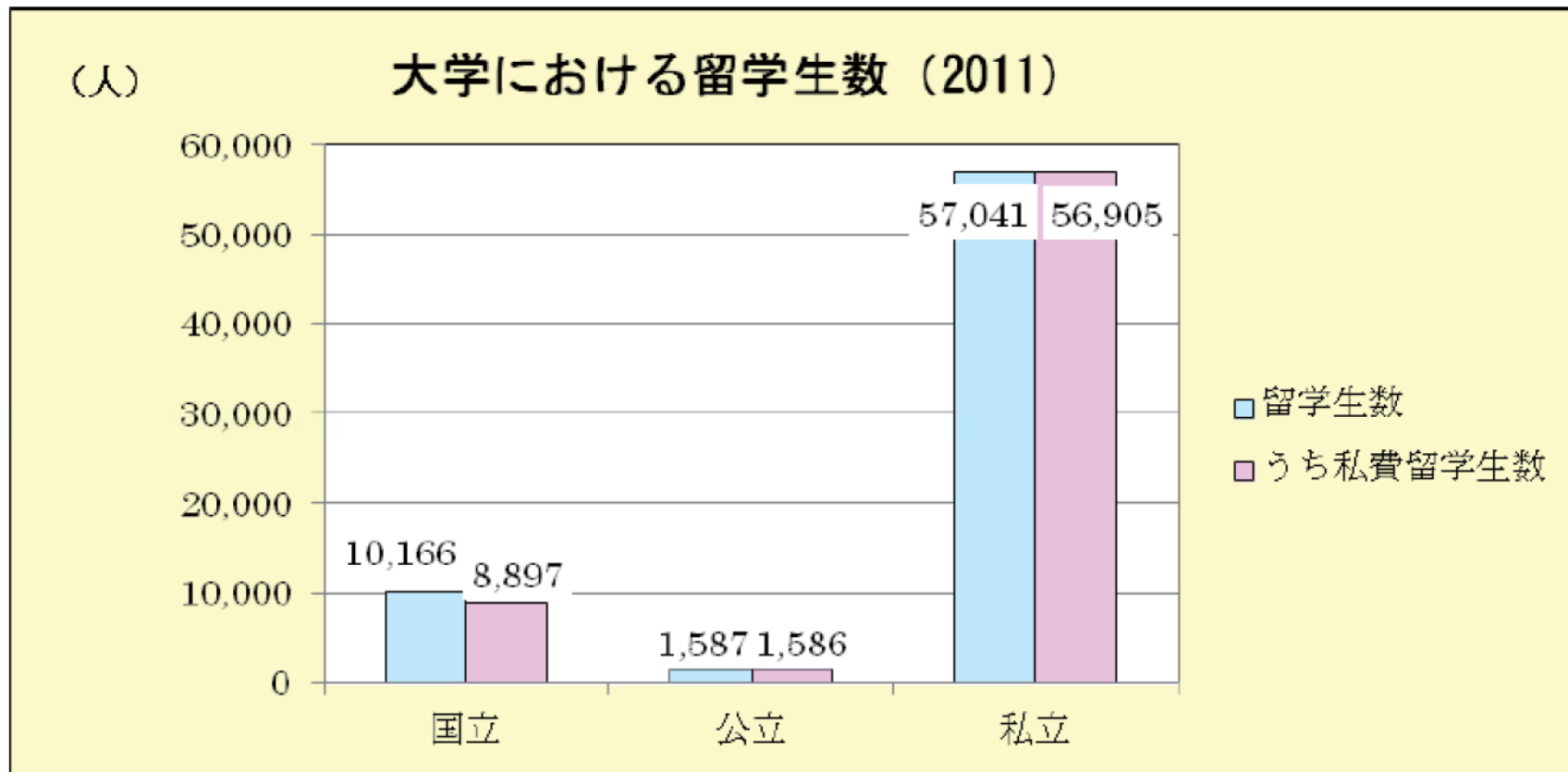
機関種別の科研費採択件数のシェア変化



- 国立大学の科研費採択件数シェアは徐々に減らし、平成25年度は56.0%であった。
- 一方、私立大学はシェアを徐々に伸ばしており、平成25年度は25.8%であった。

私立大学における国際化の推進①

私立大学では私費留学生を中心に**約8割の留学生**を受け入れ



(出典) 文部科学省「平成23年度学校基本調査」

出展: 日本私立大学団体連合会 / 日本私立短期大学協会 / 日本私立高等専門学校協会

事務職員力

事務職員力が優れている

国公立大学

総合

大学	人	大学	人
1 明治大	198	31 日本大	14
2 立命館大	189	広島経済大	14
3 金沢工業大	133	広島修道大	14
4 早稲田大	99	34 秋田大	13
5 近畿大	81	神奈川大	13
6 東洋大	72	帝京大	13
7 同志社大	60	福岡工業大	13
8 国際教養大	53	武庫川女子大	13
9 慶應義塾大	51	39 追手門学院大	12
10 中京大	43	関西外国語大	12
11 関西大	41	順天堂大	12
立教大	41	安田女子大	12
13 法政大	38	43 山形大	11
14 龍谷大	31	愛知大	11
15 芝浦工業大	30	国学院大	11
武蔵野大	30	国際基督教大	11
名城大	30	創価大	11
18 東京大	29	東海大	11
19 関西学院大	24	豊田工業大	11
20 上智大	22	明治学院大	11
東京理科大	22	51 岡山理科大	10
22 青山学院大	21	52 大阪大	9
23 九州大	20	東北大	9
24 福井大	19	横浜国立大	9
25 京都産業大	18	大阪経済大	9
東京電機大	18	56 名古屋大	8
27 金沢星稜大	17	国際医療福祉大	8
28 中央大	16	摂南大	8
29 京都大	15	千葉工業大	8
愛知学院大	15	明星大	8

事務職員は国立大よりも私立大の方が優れていると言われている。

出展：「大学ランキング2015」朝日新聞出版

総合：①経営戦略、②財務管理・資産運用、③入試・広報、④進路・キャリア教育の合計件数

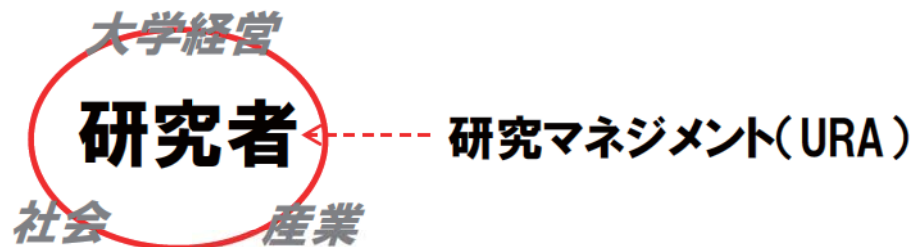
ディスカッション(セッションのモチベーション整理)

優秀な事務職員が存在



研究力は国公立大学と比べて低目
(但し、順調に伸びつつある)

<モチベーション>
私立大学の大学改革、研究力強化の
現状と、
今後さらに伸ばす上での課題を探りたい
(特に研究マネジメント面で)



現状を知る： 発表6大学の概要

※未定稿のため参考まで



	東京理科	立命館	早稲田	関西	東海	同志社
理念	「理学の普及をもつて国運発展の基礎とする」	「自由と清新」、 「平和と民主主義」	学問の独立 学問の活用 模範国民の造就	正義を権力から護れ	若き日に 汝の思想を培え 若き日に 汝の体躯を養え 若き日に 汝の智能を磨け 若き日に 汝の希望を星につなげ	「自由」と「良心」
学部数	8学部(理一、工一、薬、理工、基礎工、経営、理二、工二)	13学部(法、経済、経営、産業社会、国際、政策、文、理工、情報理工、映像、薬、生命科学、スポーツ科学)	10学術院(政経、法、文、教育、商、理工、社会科学、人間科学、スポーツ科学、国際)	13学部(法、文、経済、商、社、政策、外国語、人間健康、総合情報、社会安全、システム理工、環境都市、化学生命)	23学部(文、観光、政経、総経、経営、法、教養、国際、理、情報理工、情報通信、工、芸工、産工、基工、開工、海洋、生理工、生物、農、体育、医、健康)	14学部(神、文、社、法、経済、商、政策、文化情報、理工、生命医科、スポーツ健康、心理、グローバルコミュ、グローバル地域)
教員数	専任747名	専任1,269名	専任1,834名	専任753名	専任1,691名	専任785名
職員数	452名	1,221名	819名	508名	867名	340名
学生数	学部16,483名、 大学院3,176名 (計19,659名)	学部32,449名 大学院2,412名 (計34,861名)	学部43,962名 大学院9,156名 (計53,118名)	学部28,459名 大学院1,539名 (計29,998名)	学部29,025 大学院1,022名 (計30,047名)	学部26,804名 大学院2,105名 (計28,909名)
経常費補助金(H25)	3,423百万円 (14位)	5,956百万円 (5位)	9,461百万円 (2位)	3,386百万円 (16位)	6,629百万円 (4位)	3,394百万円 (15位)
科研費配分額(H25)	931百万円 (35位) ※大学のみのランキング	1,169百万円 (23位)	2,763百万円 (13位)	528百万円 (59位)	703百万円 (44位)	619百万円 (53位)

- 私立大学において、今後さらに研究力を伸ばし続けるための**課題**は何でしょうか？

- (経営力)大学経営の中での学術研究の意義が希薄
 - (調査分析力)他大学との研究力ベンチマークが不足
 - (企画力)全学一体となった研究力向上に資する戦略的な取組みの企画力不足
 - (人材採用・育成)優秀な若手研究者の採用と育成が不足
- など

- もし、私立大学が大学間で**連携した方が有用**と思われるのは、どのような取組みでしょうか？

- 研究担当理事の定期的な交流
 - 国立大学や海外の大学も含めた研究連携
 - 研究力に関するベンチマーク情報の共有
 - 若手研究者の大学を超えた交流
- など

理科大ならではの研究推進のための URAセンター機能強化

第4回URAシンポジウム&第6回RA研究会@北大
私大セッション
2014.9.18

東京理科大学
研究戦略・産学連携センター
名久井 恒司
nakui_kouji@admin.tus.ac.jp

教員等数:学生数 比較

東京理科大学 1:26

早稲田大学 1:31

立命館大学 1:29

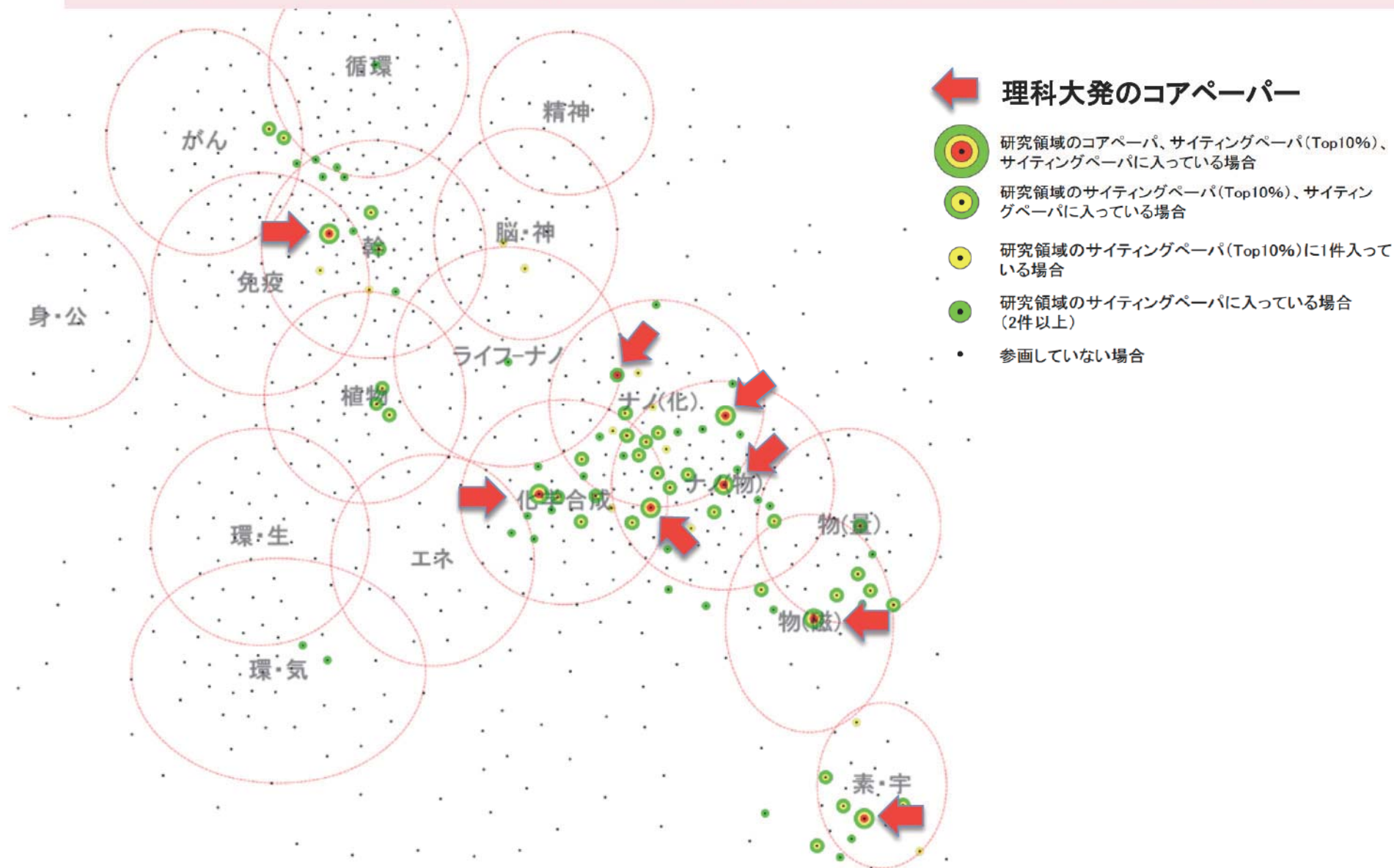
東京工業大学 1:9

東京農工大学 1:14

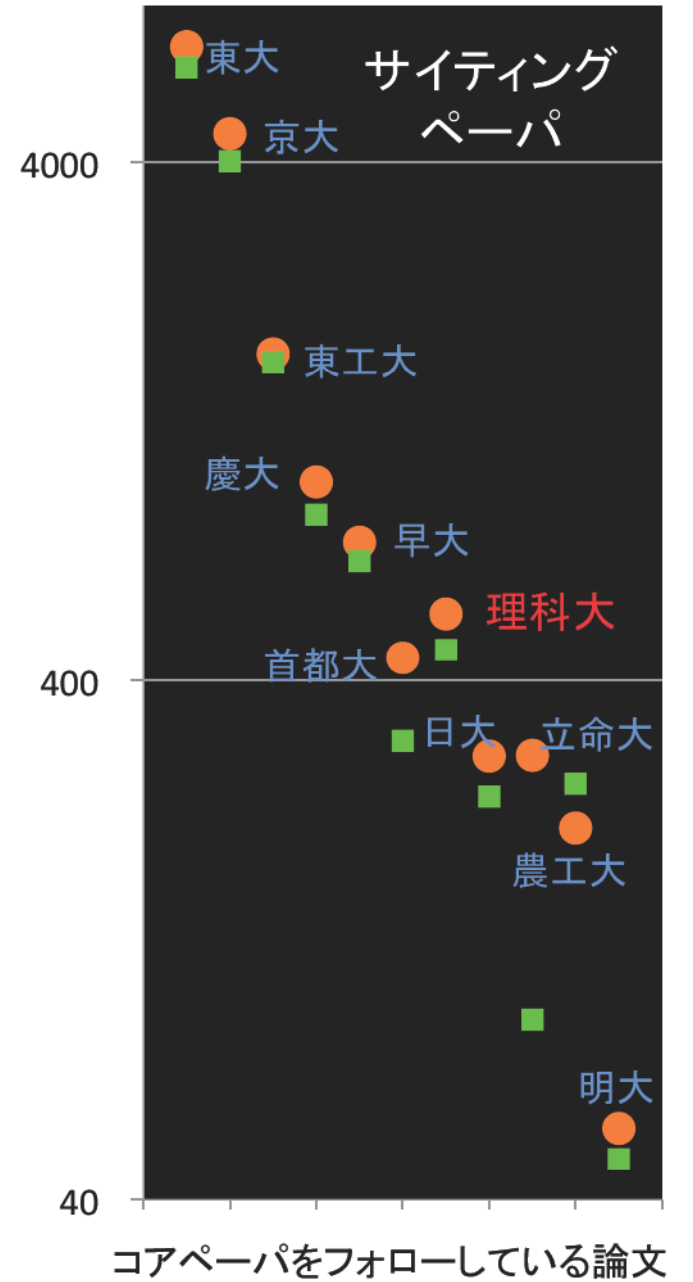
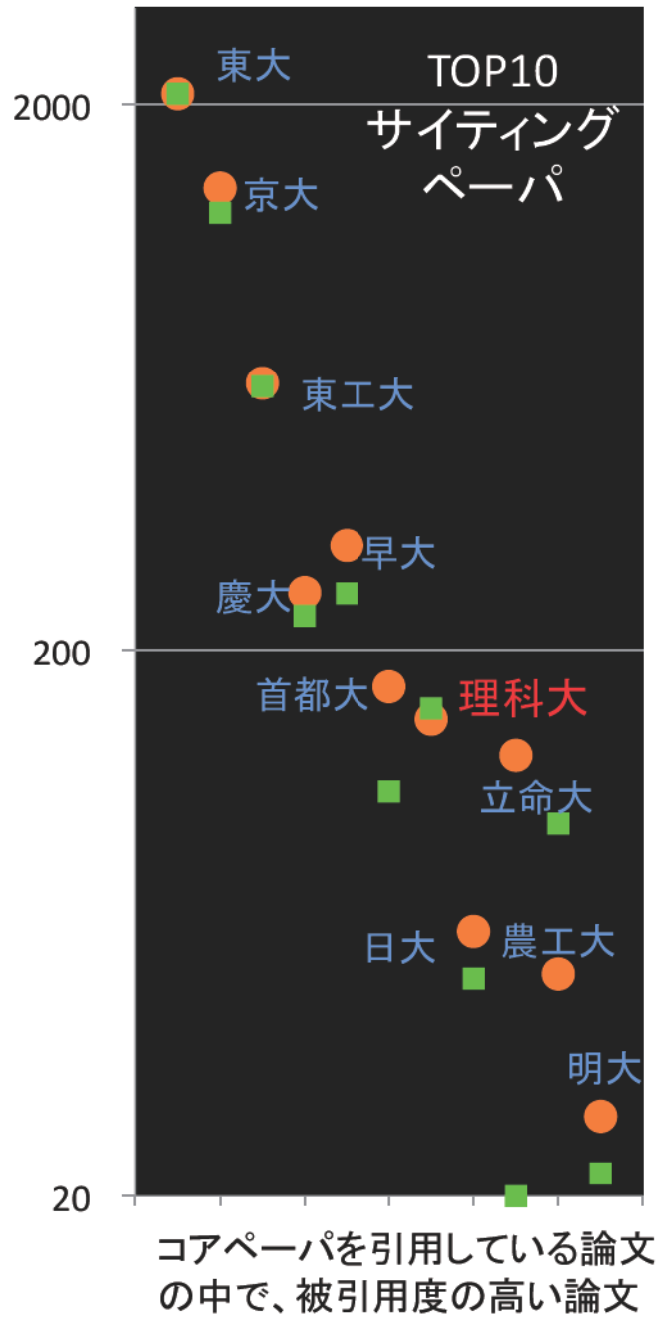
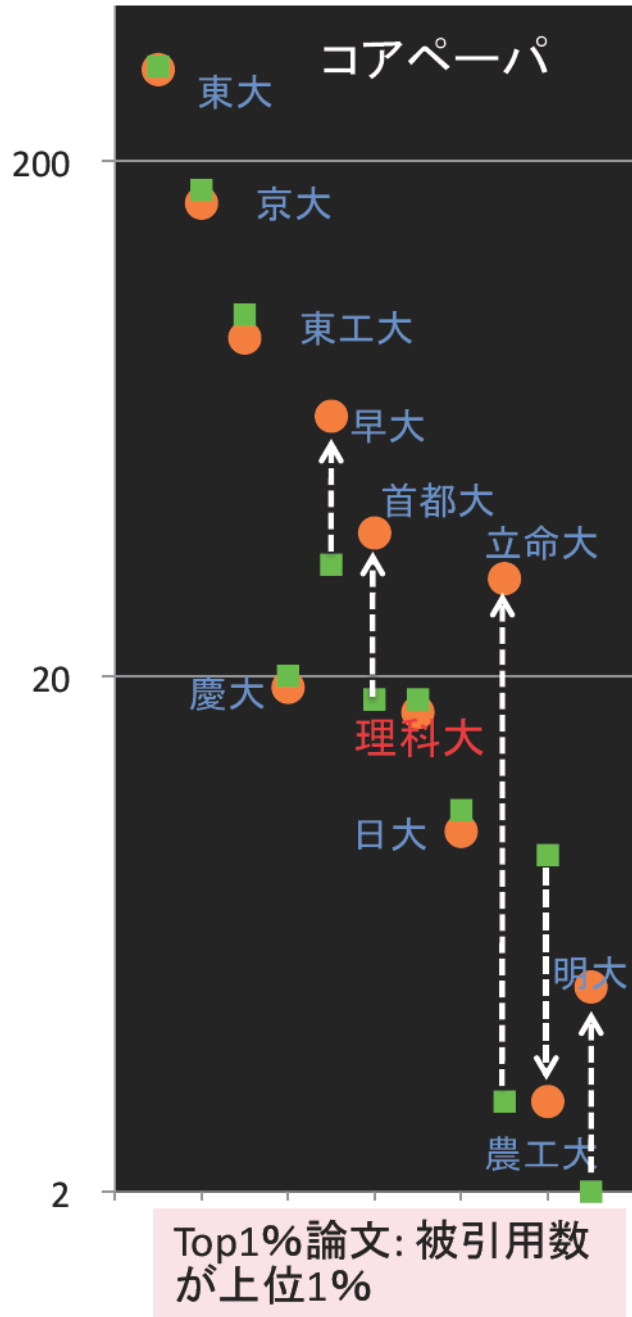
MIT 1:3

(MIT教員数 faculty + research scientists 出典:MIT ILP “FACULTY & STAFF GUIDE” (5/12/2014))

理科大発 国際的に注目を集める研究領域に置ける主要論文



● 2012年 ■ 2010年



東京理科大学の産学官連携・収益事業の現状

平成24年度 文部科学省 産学連携実施状況調査結果

東京理科大学の順位

	全国	私学
民間企業との共同研究に伴う研究費受入額	11位	2位
中小企業との共同研究に伴う研究費受入額	4位	1位
外国企業との共同研究に伴う研究費受入額	11位	3位
民間企業からの受託研究に伴う研究費受入額	26位	14位
特許権実施等件数	24位	5位

※本学は例年上位にランクイン。特に、企業との共同研究に伴う研究費受入額は私立大学で第1位。 5

学内発ベンチャー

大学発ベンチャー（4社）

会社名	主な分野	関係教員 (所属)
株式会社L.V.M.C.	1)リポゾーム・ベシクル製剤の研究・開発、製造・販売 2)リポゾーム・ベシクル製剤及び液晶構造に基づいた化粧品等の研究・開発、製造・販売等	教授 湯浅 真 他 (理工学部)
アクティブ株式会社	樹脂改良剤の研究・開発、製造・販売等	教授 阿部 正彦 他 (総合研究機構)
株式会社抗体工学研究センター	抗体作製(特定のエピトープを標的にしたもの)の受託業務等	教授 後飯塚 僚 他 (生命医科学研究所)
株式会社イノフィス	介護福祉機器の開発、設計、製造、販売等	教授 小林 宏 (工学部)

大学発NPO法人（1社）

会社名	主な分野	関係教員 (所属)
システム薬学研究機構	システム薬学の新たな教育研究基盤の構築及び医薬品等の有効性増強、安全性向上を目的とした創薬研究、臨床利用の新規の情報基盤の構築	教授 牧野 公子 (薬学部)

許可終了企業（12社）

東京理科大学の中長期計画 2014～2019年度

めざせエベレスト！

“山は登ろうと思わないと登れない”

理科大のあるべき姿：世界で最も魅力のある大学



東京理科大学の中長期計画 2014～2019年度

- 理科大ビジョン2014

日本の理科大から世界の理科大へ
—世界で最も魅力のある大学を目指して—

東京理科大学の中長期計画 2014～2019年度

研究・産学公連携方針

「**理科大ならではの研究**」をグローバルに展開します。

国内外の大学間連携、産学公連携・地域連携を強力に推進します。

<目標1>

大学の本来の使命である基礎・基盤研究を重視するとともに、実用化に近い応用研究についても、強化・重点化を図ります。

具体的実施計画

- ① 「研究戦略中期計画」を策定します。
- ② 「**URA (University Research Administrator)**」体制を充実し、教員の研究サポートの強化、外部資金獲得の拡大、産学公連携の促進を図ります。
- ③ 総合研究機構に「国際先端研究院」を設立し、重点分野の研究を世界展開します。
- ④ 研究費、助教・ポスドク、スペース等の研究資源の重点配分を行います。
- ⑤ 研究成果の評価方法を確立し、PDCA サイクルを機能させます。
- ⑥ 本学の研究を社会に理解してもらうための活動と情報公開を積極的に進めます。

<目標2>

「理学の普及」という建学の精神を踏まえ、産学公連携・地域連携を強力に推進します。

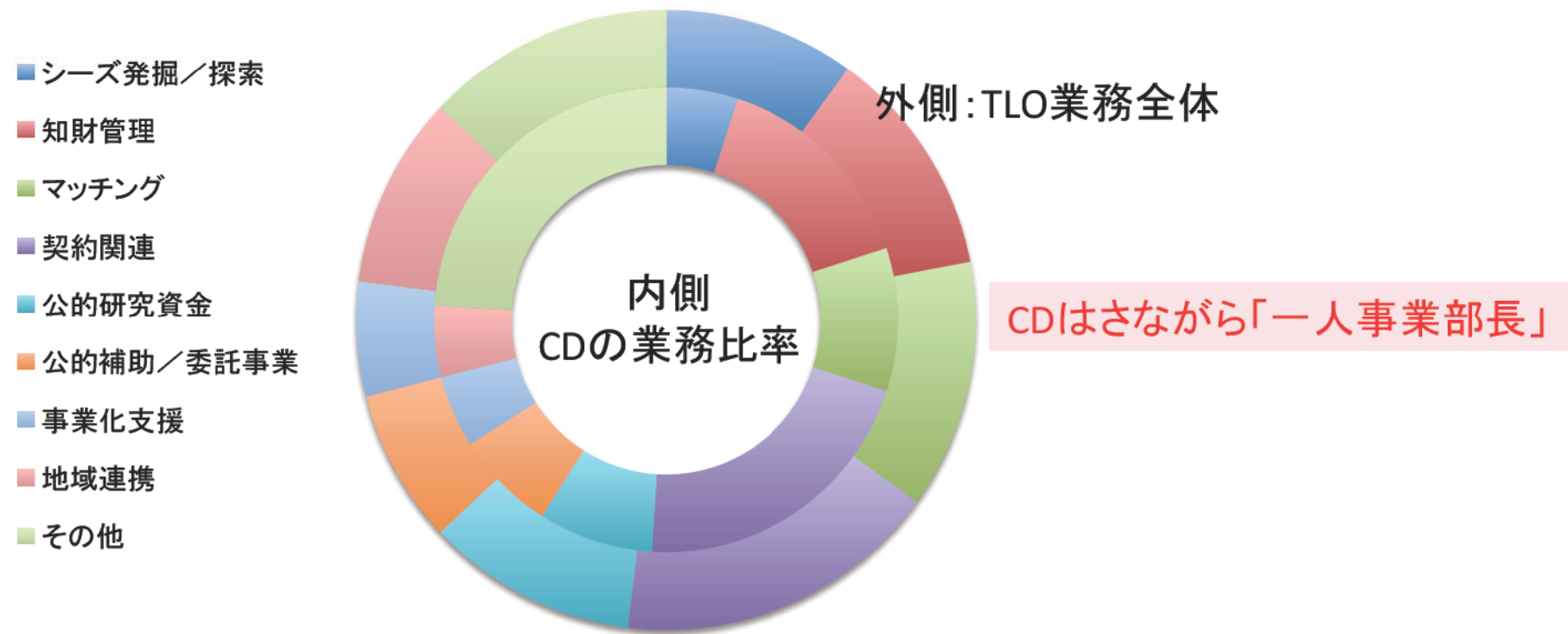
具体的実施計画

- ① 市場化に近いベンチャー企業、グローバルに展開する国内外企業との連携を強化し、外部資金獲得の飛躍的拡大を図ります。
- ② 研究成果の市場化への橋渡し機能を果たす、グローバルリサーチコア、試作開発体制を構築します。
- ③ 地域資源、技術、人財を活用した地域産学公連携体制を構築します。

TLOセンター時代の分析 (2014.1.14)

センターのほぼ全業務をコーディネーターがカバー。

CD 13名、知財担当 7名、企画管理 4名、URA 3名



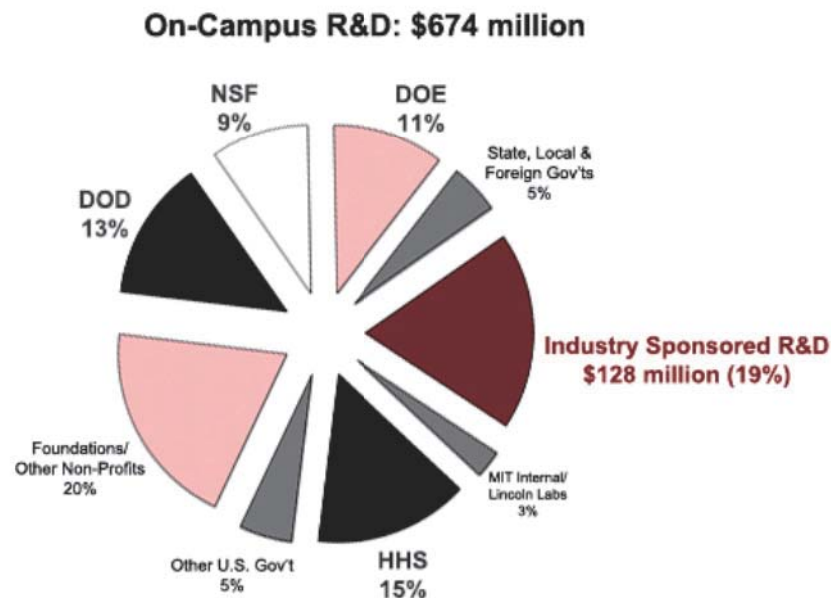
2014年4月以降、CD → URA 20名
現在、機能分担見直し中

理科大が範にとるMITは

- 教員1025名、研究者2600名
- 学部生4500名、院生6600名
比率 教員等1:3学生
- ノーベル賞受賞者 79名
- ライセンス収入 8千万ドル(累計)
- 700社から資金提供(2013年度)
過半はILPメンバーから
34社は百万ドル以上支出

ILPは、企業とMITとの連携の生産性を高めるために1948年に設立された有料会員制のプログラムである。700社から研究開発のための資金提供(2013年度)を受けている。その過半はILPメンバーからのもので、うち34社は百万ドル以上受け取っている。各ILOには、担当する学内研究部門を持ち、対応する産業界のニーズに精通している。

年間研究費6.7億ドルのうち、1.3億ドルを企業から獲得



Faculty Interactions

Face-to-face discussions with MIT faculty and researchers are the most highly valued service the ILP provides, as these interactions often sow the seeds of successful collaborations. The ILP actively **MITでは** advocates your company's research and strategic agenda on campus, and secures substantive meetings with key faculty and researchers. Your Industrial Liaison Officer (ILO) provides continuity and serves as the facilitator to move discussions along and work with both your representatives and faculty to enable mutually beneficial outcomes.



ILP-arranged meetings are recognized by time-pressured faculty as being highly productive, facilitating high-caliber discussions and highlighting potential partnership opportunities. **経験豊富なILO(リエゾンオフィサー)が教員を紹介**

Your ILO, a veteran MIT insider, and well-briefed on your company's needs and objectives, is perfectly positioned to advocate your agenda on campus, quickly identifying and engaging the interest of relevant faculty. **面談、ウェブキャスト、電話など多様なアレンジ可能**

Meetings may be combined into half-day or full-day visits, at your company's discretion. If meeting face-to-face is difficult, your ILO may arrange an interactive video conference webcast or telephone conference call.

In addition to small, one-on-one meetings, another option for company members is engage MIT in an Executive Planning or Research Briefing/Conference for Management. Your ILO can organize a one-day private seminar at MIT for up to twenty of your senior corporate staff. These private, customized executive briefings are often used to enhance strategic planning, to examine emerging research and technology, or to consider new management approaches to corporate issues. **カスタマイズされた経営層向けセミナーも**

ILPとスタッフ

Name Gabrielle Accardi
Title HR Administrator



Name Sheri Brodeur
Title Senior Industrial Liaison Officer



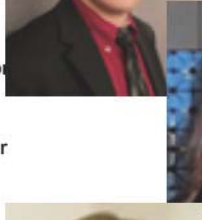
Name Neena Buck
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name David Camacho
Title Associate Director, Development



Name Corey Cheng
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name Janet Cronin
Title Financial Administrator



Name Jon Dawood
Title Research Analyst



Name Maria DiCicco
Title Senior Administrative Assistant



Name Sara Egan
Title Senior Research/Information Specialist



Name James Gado
Title Associate Director, Corporate Relations



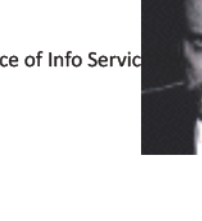
Name Mary Ellen Gearin
Title Director of Finance and Administration



Name Todd Glickman
Title Senior Associate Director



Name Ken Goldman
Title Manager of Corporate Relations



Name Sheryl Greenberg
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name Stefanie Hanlon
Title Administrative Assistant II



Name Scott Jensen
Title Assistant Director, Office of Information Services



Name Bob Karp
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name KC Klingensmith
Title Editor / Information Coordinator



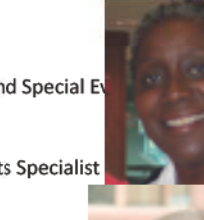
Name Tony Knopp
Title Senior Industrial Liaison Officer



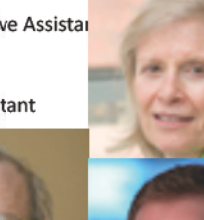
Name Karl Koster
Title Executive Director of Development



Name JJ Laukaitis
Title Senior Industrial Liaison Officer
Phone 617-253-8986



Name Mike Lawson
Title Director, Corporate Communications



Name Emily Ledger
Title Administrative Assistant II



Name Kwan Lee
Title Manager of Conferences and Special Events



Name Eric Markowsky
Title Communications and Events Specialist



Name Victoria McLaurin
Title Receptionist / Administrative Assistant



Name Marsha Myles
Title Senior Administrative Assistant

Name Rachel Obera
Title Associate Director

Name Greg Oratovsky
Title Senior Associate Director, Japan Office

Name John Roberts
Title Senior Industrial Liaison Officer

Name Graham Rong
Title Senior Industrial Liaison Officer

Name Klaus Schleicher
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name Enrique Shadah
Title Senior Industrial Liaison Officer
Phone 617-253-8129



Name Ronald Spangler
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name Tom Swenson
Title Database Developer II



Name Fiona Tai-Farzan
Title Senior Administrative Assistant



Name Chuan Tang
Title Senior Industrial Liaison Officer



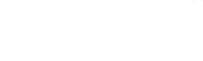
Name Trond Undheim
Title Industrial Liaison Officer



Name Marie-Teresa Vander Sande
Title Senior Industrial Liaison Officer



Name Marsha Warren
Title Associate Director, Executive Events



Name Margaret Wells
Title Information Specialist



Name Irwin Winkler
Title Senior Industrial Liaison Officer

Name Randall Wright
Title Senior Industrial Liaison Officer

Name Jing Xu
Title Administrative Assistant

Name Keiji Yano
Title Associate Director, Japan Office

Name David Zhu
Title Senior Industrial Liaison Officer

MITのILOとTLOスタッフ数

ILO 実員 21名

OCR (Office of Corporate Relations) に所属
他に支援スタッフ

TLO 計39名

TLO 17名 (うち管理職3)
支援スタッフ 22

http://web.mit.edu/tlo/www/about/our_staff.html

出典: MIT ILP "FACULTY & STAFF GUIDE" (5/12/2014)

平成26年4月1日 東京理科大学研究戦略・産学連携センター設置

～基礎研究から応用研究までの研究支援と産学連携による研究成果の社会還元を一体的に推進～

<学則 第63条の5>

研究戦略・産学連携センターは本学における**研究戦略の策定**、**研究活動の支援**及び**産学連携活動の推進**を通じて、本学の教育研究の活性化及び社会貢献の促進を図り、もって我が国の科学技術発展に資することを目的とする。

教育研究の活性化・社会貢献の促進

研究戦略の
策定

研究活動の
支援

産学連携
活動の推進

「理科大ならではの研究」
をグローバルに展開

※科学技術交流センターの機能は発展的に当センターが継承。なお、経済産業省・文部科学省の承認TLOは取消し。

研究戦略・産学連携センター活動方針

東京理科大学研究戦略中期計画（2014～2019年度）に基づき活動

目指すべき姿

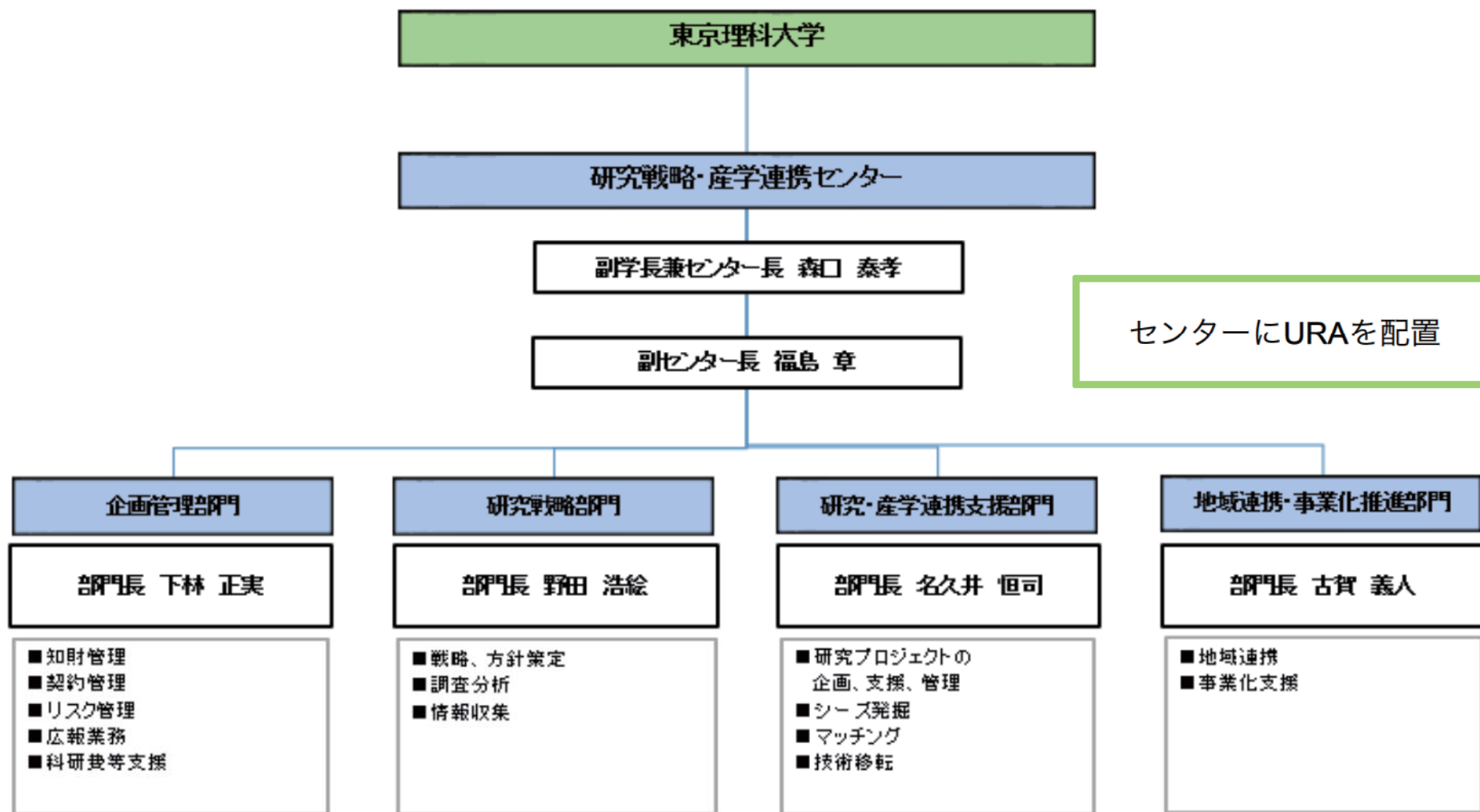
理科大ならではの研究を世界レベルで展開し、「日本の理科大」から「世界の理科大」へと発展することを目指す。

基本目標

理科大ならではの研究を推進し、研究力の観点から国際的に評価される大学としての地位を確立することを目指す。

グローバルな産学連携体制及び地域資源・技術・人財を活かした地域の産学公金連携体制を構築・強化し、研究成果や知識を広く社会に還元することを目指す。

研究戦略・産学連携センター組織図 (平成26年6月1日現在)



研究戦略・産学連携センターにリサーチ・アドミニストレーター配置

What's URA

University Research Administrator とは

研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材

大学の研究戦略策定
研究戦略に係る調査及び分析

競争的資金等獲得に向けた
情報収集・企画・立案

公的研究費等の
申請書作成サポート

研究プロジェクトの企画
研究計画等に関する法令等の対応及び精査

研究プロジェクトについての
提案・交渉・進捗管理

知的財産等の権利化
発信及び活用

国内外に対しての
本学の研究成果の広報

センターに URA 約20名 を配置

まとめ

- 研究力の現状 → 高い目標
理科大ならではの研究＋新たな戦略的研究分野
- TLO → URA
コーディネーター → リサーチ・アドミニストレーター
専門職／支援スタッフの拡充
機能分担による業務効率向上



第4回 URAシンポジウム・第6回 RA研究会 合同大会
＝私大の研究力強化への新たな取組＝



研究の高度化に向けた「テクノプロデューサ制度」 ＝立命館大学での取組みを例に＝



立命館大学 産学官連携戦略本部
中谷 吉彦

2014年9月18日（木）

はじめに

■立命館大学では、**URA/RAとの名称**での研究推進・支援スタッフを**配置**していない。

■2006年に、主に**産学連携の推進・加速**を目指して、産学連携の入口から出口まで **一気通貫**で担当する「**テクノプロデューサ**」を**配置**

⇒**研究力の強化・高度化**にむけて、「**テクノプロデューサ**」の**あり方；確保・育成・活用**を検討

「私立大学」としての特性とその活用

= 研究力の強化・高度化の視点から =

- **教員・研究パワーに限界、教員1人当たりの学生数が大**
 - ・教育への相対的な重点シフト
 - ⇒「研究力の強化」に向けた独自の新たな施策
- **組織体系・運営、マネージメント面でのフレキシブルさ**
 - ・新たな制度・仕組みの導入が比較的容易
 - ⇒研究推進・支援機能の強化による「研究の生産性」の向上
- **教員と職員の間“距離”の短さ**
 - ・教員－職員の相互補完体制の構築が可能
 - ⇒相互の信頼関係に基づく「教職協働」の推進

(1) 研究推進・支援機能の強化

- ◆ **教職協働体制の強化**
 - ・新たな職務機能の設置
 - ⇒「テクノプロデューサ制度」の導入

(2) 研究力強化・高度化

- ◆「研究高度化中期計画」の策定・実践
 - ・政策重点研究のマネージメント組織
 - 「グローバル・イノベーション研究機構」の設置；大学の“意志”としての研究

(1) 「テクノプロデューサ制度」の導入 (2006年)

当初は主に、「産学官連携」における研究活動の推進に重点

◆ 研究室エージェント制

- ・研究室への深化
- ・教員との信頼関係構築

◆ 「入口から出口まで」の 一気通貫での担当

- ・情報の共有化・流通の促進
- ・全学的な研究状況、研究環境の俯瞰が可能

◆ 多様なスタッフでの活動

- ・経験、専門分野、職種、年齢
- ・人的ネットワーク拡大、相互啓発の進展

「研究の高度化」に向けた
進化が必要に

◎ スタッフのさらなるスキル
アップと活用
⇒ 高度専門職としての明確な
位置づけ

◎ 研究者(教員)側の理解
⇒ 着実な実績の積上げと啓蒙

(2) 研究力の強化・高度化

◆ “研究力の強化・高度化”に向けた、「基盤研究」と「政策重点研究」の並行した加速・促進に向けた取組み

■ 基盤研究

研究者自身の関心・興味で行う研究

「研究高度化プログラム」(学内競争資金制度)による推進

■ 政策重点研究

大学の研究政策に基づく「意志」として行う研究

「立命館グローバル・イノベーション研究機構」(R-GIRO)によるマネージメント(2008年)

・自然科学分野:6つの重点分野

①環境 ②エネルギー ③食料 ④材料/資源 ⑤医療/健康 ⑥安全/安心

【第1フェーズ】 特定領域型研究プログラム;若手研究者(PD)の確保・育成
2008年～ :22プロジェクト;1,000万円/年×5年間

【第2フェーズ】 拠点形成型研究プログラム;異分野統合による拠点形成
2012年～ :6拠点で推進中;4,000万円/年×3年間

テクノプロデューサの積極的な噛み込み ⇒ 政府系大型プロジェクトへの挑戦

研究推進・支援体制（自然科学系）

【ポイント】

◆極カシンプル・フレキシブルな
組織運営

組織体制、職制・階層
意思決定/徹底メカニズム

2014年4月1日 現在

学長

本部長
(研究担当理事・副総長・副学長)

研究部 リサーチオフィス (BKC)

リエゾンチーム 28名

- ◇シーズ発掘・シーズ広報
- ◇受託研究等コーディネート
- ◇知財創出・管理・活用
- ◇技術移転
- ◇公的研究プロジェクト外申請支援
- ◇プロジェクト形成
- ◇事業化支援・ベンチャー支援
- ◇国際産学官連携推進

テクノプロ
デューサー
16名を配置

PJ推進チーム 32名

- ◇プロジェクト管理
- ◇予算管理・執行

企画推進チーム 32名

- ◇産学官連携戦略企画
- ◇知的財産管理
- ◇法務対応
- ◇研究機構運営

連携

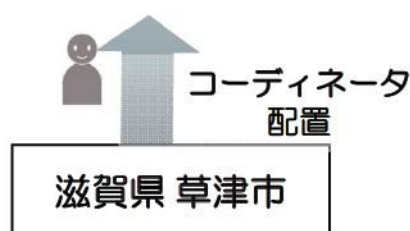
立命館グローバル・
イノベーション研究機構
(R-GIRO)

総合科学技術研究機構

インキュベータ

産学連携ラボラトリー

研究推進・支援に関するすべての機能を“ワンストップ”で対応



ノウハウ・専門知識、ネットワーク

産学官連携アドバイザリーボード

弁護士、弁理士、商社、メーカー等
の専門的人材で構成

課題意識

《研究の高度化に向けた、より実効的な研究推進・支援スタッフのあり方》

■ 「研究推進・支援の機能強化を、専任のスタッフの確保と配置で」をサポートする要素(制度・仕組み)

- ・財政面(雇用原資/期間)
- ・人事面(職制・職階、雇用形態、キャリアパス; モティベーション)
- ・組織運営面(組織としての位置づけ)

■ 関連部門・職能との連携

- ・人事、財務、研究推進部門

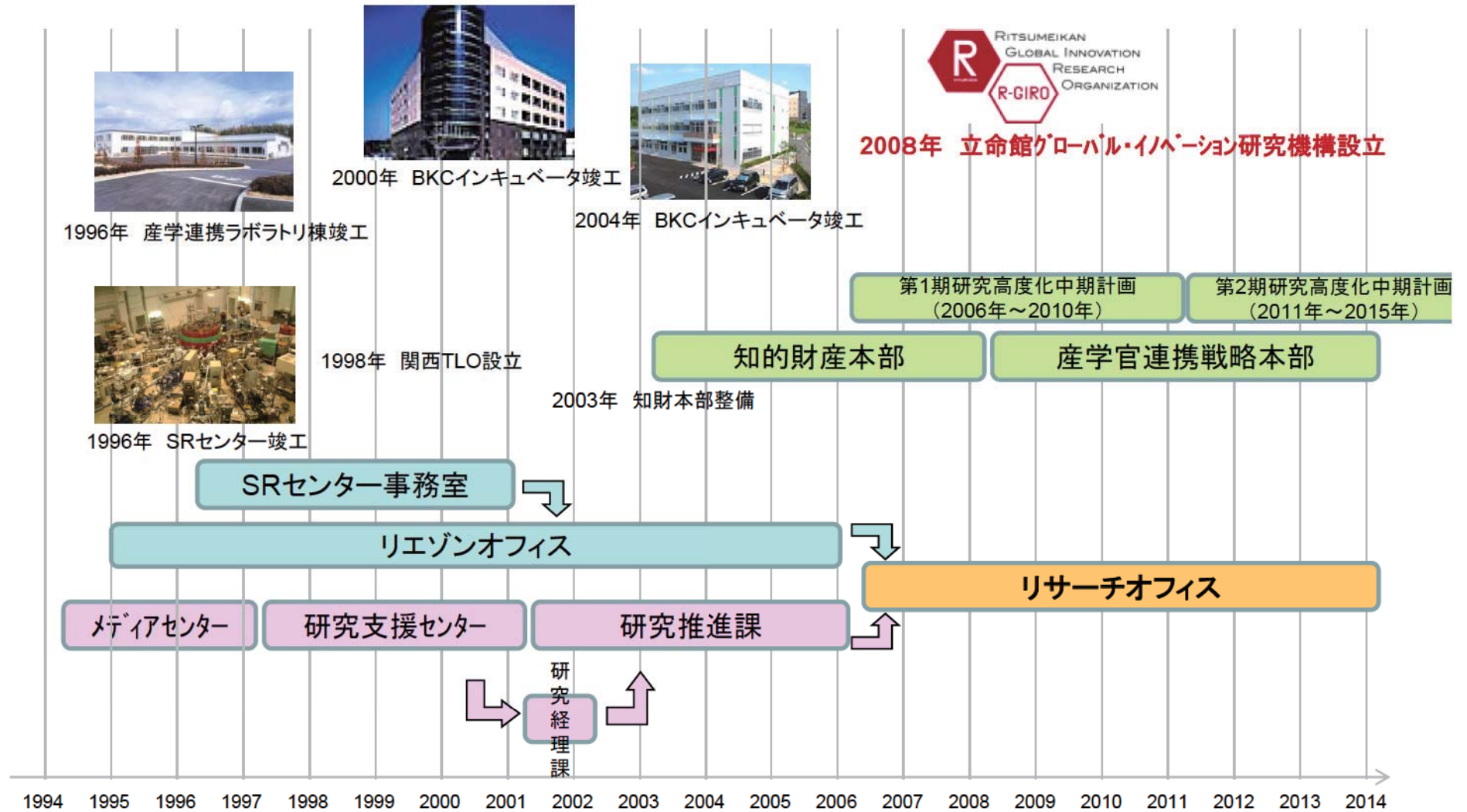
■ 業務のあり方・責務(役割分担; 権限・責任)

- ・既存職制(Ex. コーディネータ etc.)との棲分け、評価

■ 教員、学外(企業、行政機関、地域)からの理解・サポート

- ・“身内”以外への情報発信・共有

<補足資料 1> リサーチオフィスの沿革



▲ びわこ・くさつキャンパス開設

<補足資料 2> 自然科学系の教育・研究体制

教育・研究(19学科+5研究科)

(2014年4月)



●教員数: 436名

●学生数(含、大学院):
約10,200名

すべて滋賀県(草津市)の
「びわこ・くさつキャンパス」
に集結



END

お問合せ先:

**〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学 リサーチオフィス(BKC)**

TEL:077-561-2802

FAX:077-561-2811

E-mail:liaisonb@st.ritsumei.ac.jp

HP : http://www.ritsumei.jp/b-liaison/index_j.html

■RA研究会セッション

私大の研究力強化への新たな取組

～国公立との違い、私大だからできるユニークな取組～

早稲田大学の研究力強化の取組

早稲田大学 研究戦略センター

教授 松永 康



Waseda Vision 150 (2012-) : 20年後を見据えた中長期計画

ビジョン② 世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する研究

◆10学術院体制

<文系>

- ・政治経済
- ・法学
- ・文学
 - 文学、文化構想
- ・商学
- ・社会科学総合
- ・国際

<理系>

- ・理工
 - 基幹理工
 - 創造理工
 - 先進理工

<文理複合系>

- ・人間科学
- ・スポーツ科学
- ・教育・総合科学

13学部 24研究科

【基軸2】

◆未来をイノベートする独創的研究の推進



核心戦略

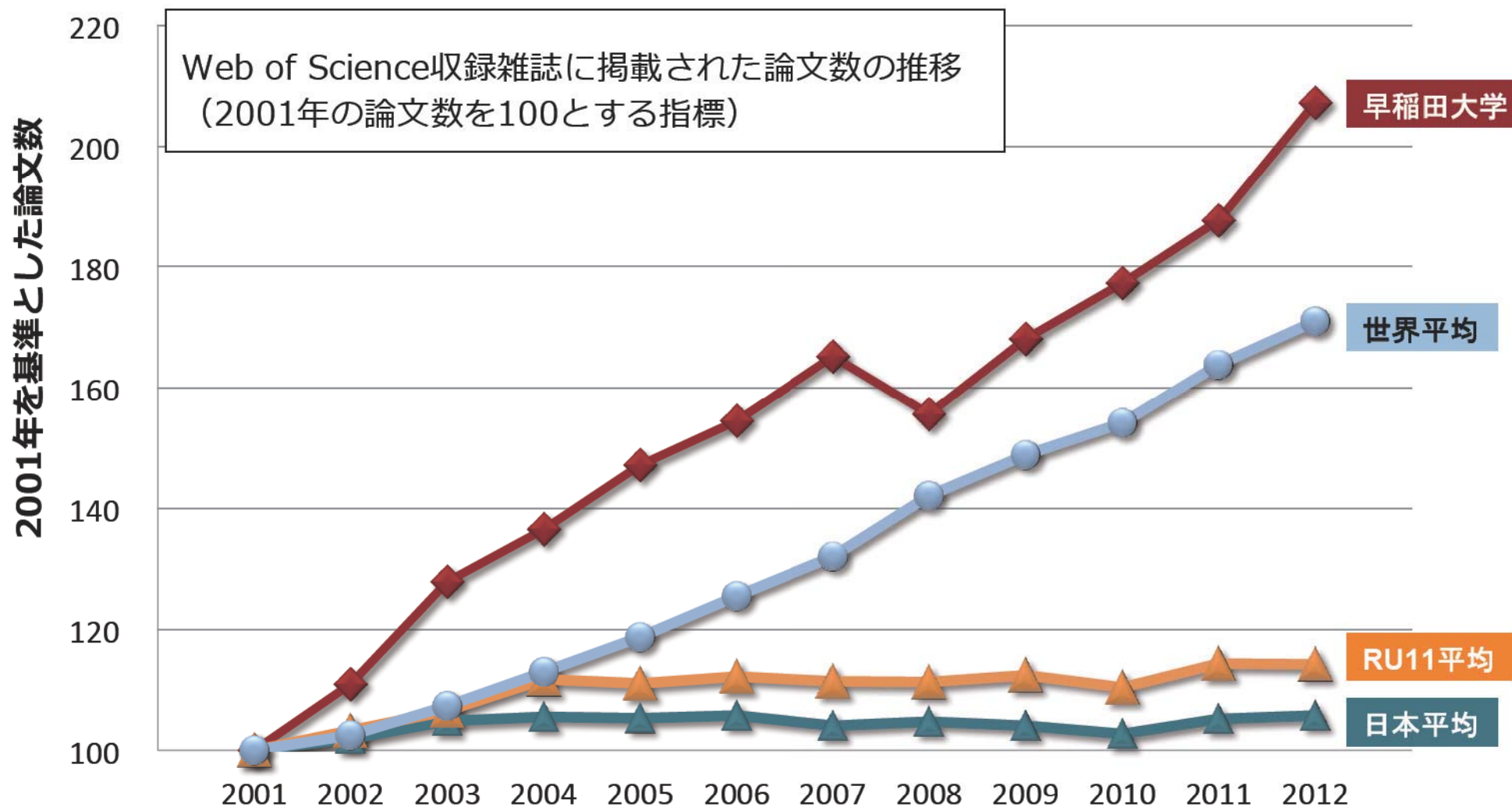
- ◆独創的研究の推進と国際発信力の強化
- ◆世界のWASEDAとしての国際展開
- ◆新たな教育・研究分野への挑戦

国際研究大学へと発展するため、研究組織や支援体制の構築、研究の国際発信の強化などを行う



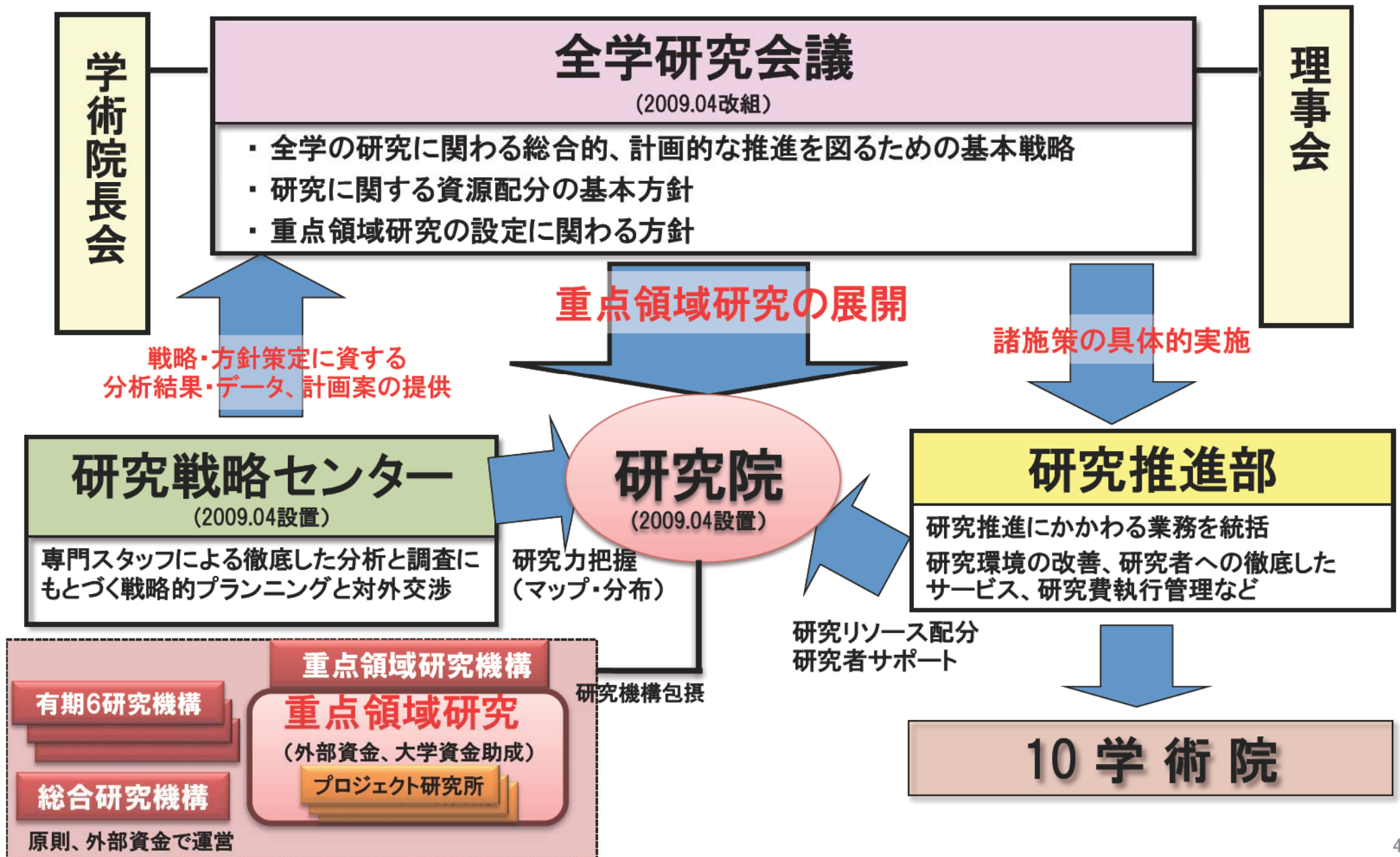
<受入研究費>
 96億円 ⇒ 200億円
 (収入の20%)
 学費に依存しない自立的な研究支援体制の確立を目指す

研究力伸長を表す論文数の増加率

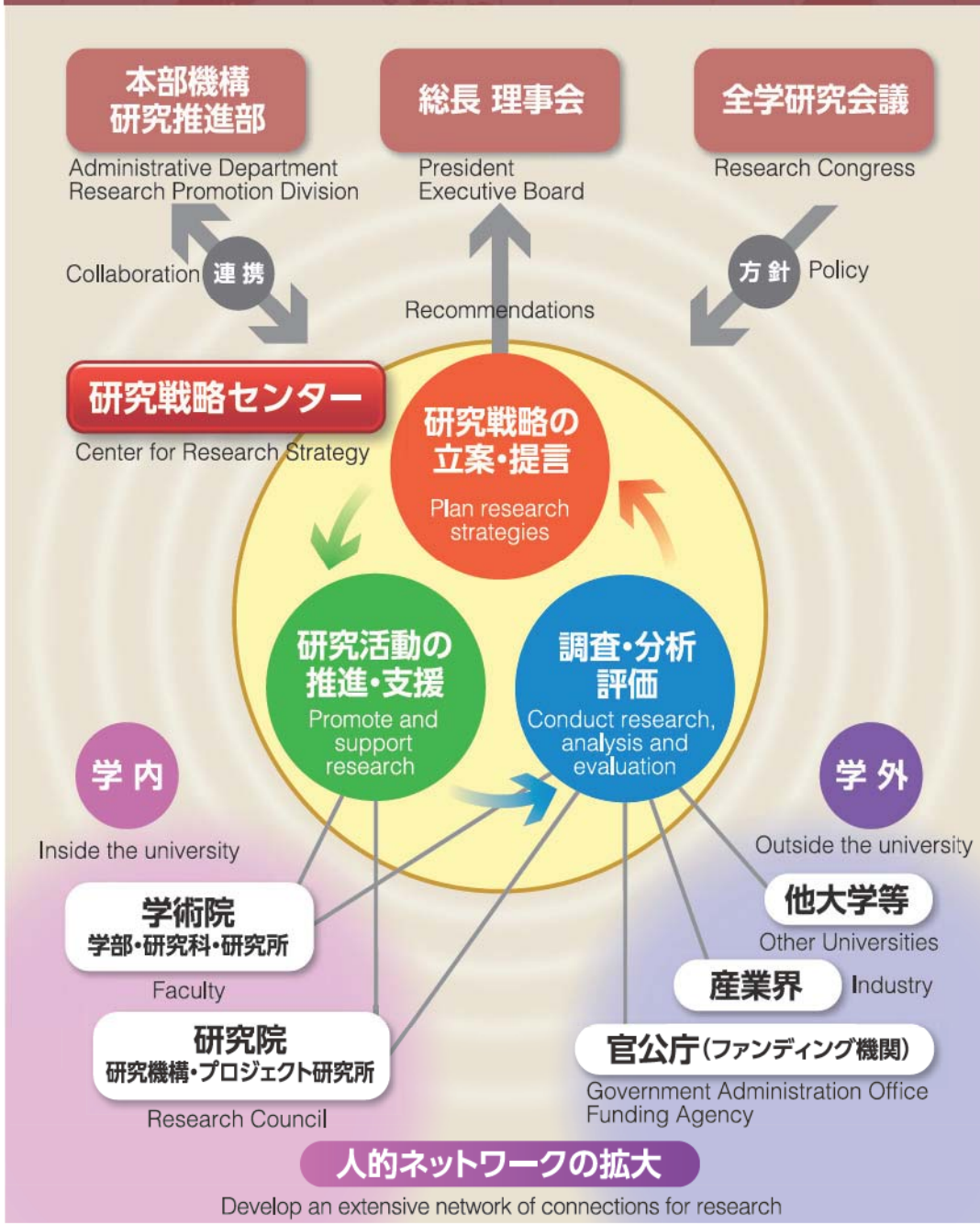


NISTEP「研究論文に着目した日本の大学のベンチマーキング 2012」に基づき、Thomson Reuters社Web of ScienceよりInCitesを用いて独自に集計。対象データベース(Science Citation Index Expanded, Social Science Citation Index, Arts & Humanities Citation Index)、期間2001年1月1日～2012年12月31日、全てのドキュメントタイプ(Article, Letter, Proceedings Paper, Review等)で集計

戦略的研究推進体制に改変 (2009-)

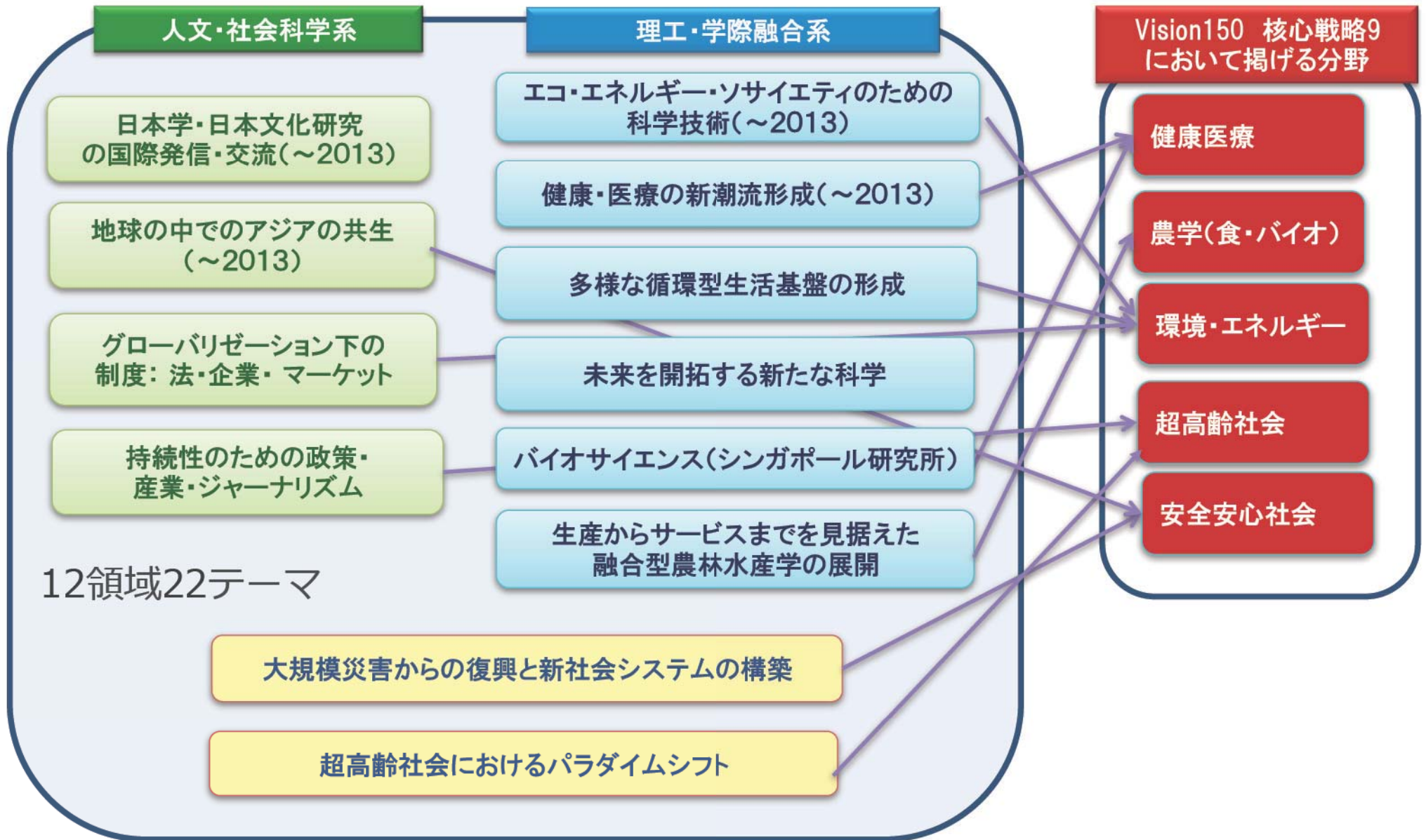


研究戦略センター (2009-)



- ◆ 所長 棟近雅彦・教授
 - ◆ センター員 小林直人・教授(副所長)
中島一郎・教授
松島裕一・教授
松永 康・教授
澤谷由里子・教授
- URA教員 2013～
 - 橋本和夫・教授
 - 枝川義邦・教授
 - 古賀康之・准教授
 - 丸山浩平・准教授
 - 島岡未来子・講師
 - 一之瀬貴・講師
- ◆ 事務スタッフ 高木祐治・事務長
ほか3名

重点領域：国際競争力ある自立・持続的研究拠点の形成 (09-13, 14-)



GCS研究開発センター (2011-)

(GCS : グリーン・コンピューティング・システム)

本施設の役割

超低消費電力、高性能、太陽電池で駆動可能な次世代マルチコア・メニーコアプロセッサのハードウェア技術、ソフトウェア技術、サーバ・情報家電・ロボット・自動車等への応用技術を研究開発する**産学連携研究施設**

特徴

国際学会等を実施し、先端技術開発に向けた人材育成を行う機能を付随。

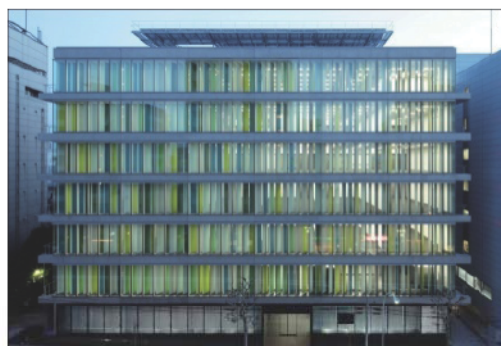
企業研究室と大学の研究室を施設に同居させ、産学の共同研究を促進。

企業研究室はセキュリティを重視、大学の研究室は扉をガラス張りとし、

複数の研究室を同居させ、共同研究を促進

交通量の多い早稲田通りに面し、また、公共交通機関(地下鉄、バス)の駅から

徒歩1分以内のアクセスが便利な場所に設置することで、研究者の交流を促進。



建築面積 755平米
延床面積 5155平米
基礎免震 8階
現在6社がフロアに

- 経済産業省 「平成21年度産業技術研究開発施設整備費」
- **太陽電池でサーバを動かしてしまおう**

総合人文科学研究センター(RILAS, 2012-)

120年余の人文科学研究の歴史を持つ文学学院のもとに設立

- ▶ 大学院教育と連動した若手研究者の育成
- ▶ 海外からの研究員の受け入れ
- ▶ 講演会やシンポジウムなどの国際的な研究交流の促進
- ▶ 社会からの要請に応じた受託研究・共同研究の受け入れ



学際的で総合性の高い13の研究部門を設置

現代日本における「信頼社会」再構築のための総合的研究

早稲田大学比較文学研究室

国際日本学共同研究部門

イメージ文化史

グローバル化社会における多元文化の構築

東アジアの人文知

トランスナショナル社会と日本文化

前近代東アジア世界における歴史・社会・文化の研究

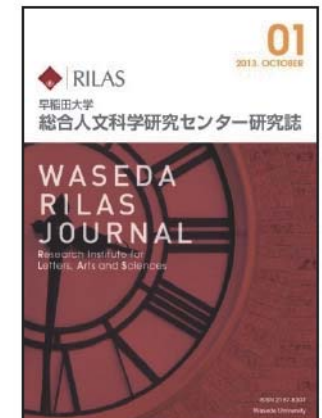
社会の複雑化・階層化の史的パースペクティブ

現代社会における危機の解明と共生社会創出に向けた研究

知の蓄積と活用に向けた方法論的研究

行動・社会・文化に関する多角的アプローチ

ヨーロッパ基層文化の学際的研究



私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014-)
「近代日本の人文学と東アジア文化圏
—東アジアにおける人文学の危機と再生」

研究大学強化促進事業 (2013-)

方針1. 研究の組織化: チーム型、組織型研究の拡充・強化

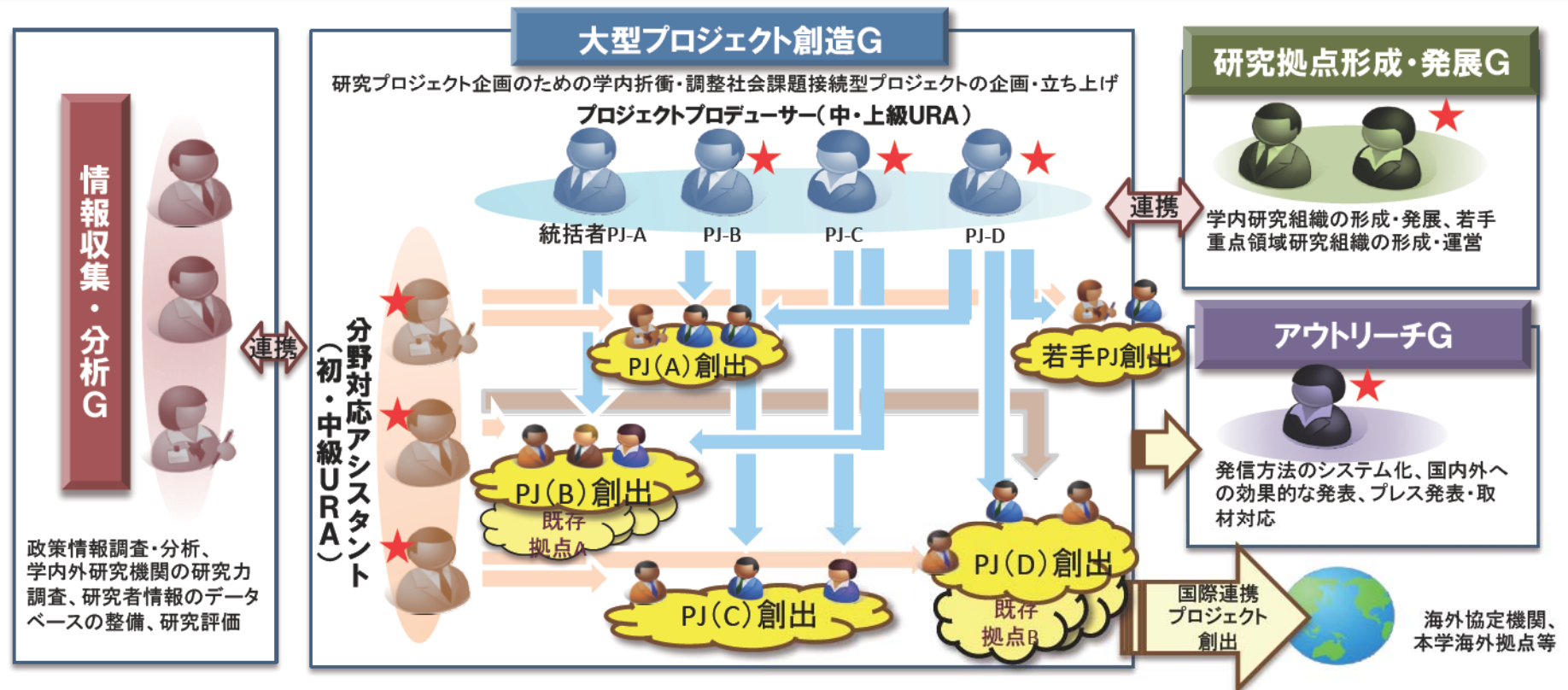
強みのある研究領域を中心に多分野研究者の協働による研究活動を促進し、集団としてのプレゼンスを向上させる。幅広い年代で、独創性と生産性の高い研究者が集積する競争的環境を整備する。

方針2. 研究指向の展開: 社会の課題と結び付いた分野への新たな挑戦

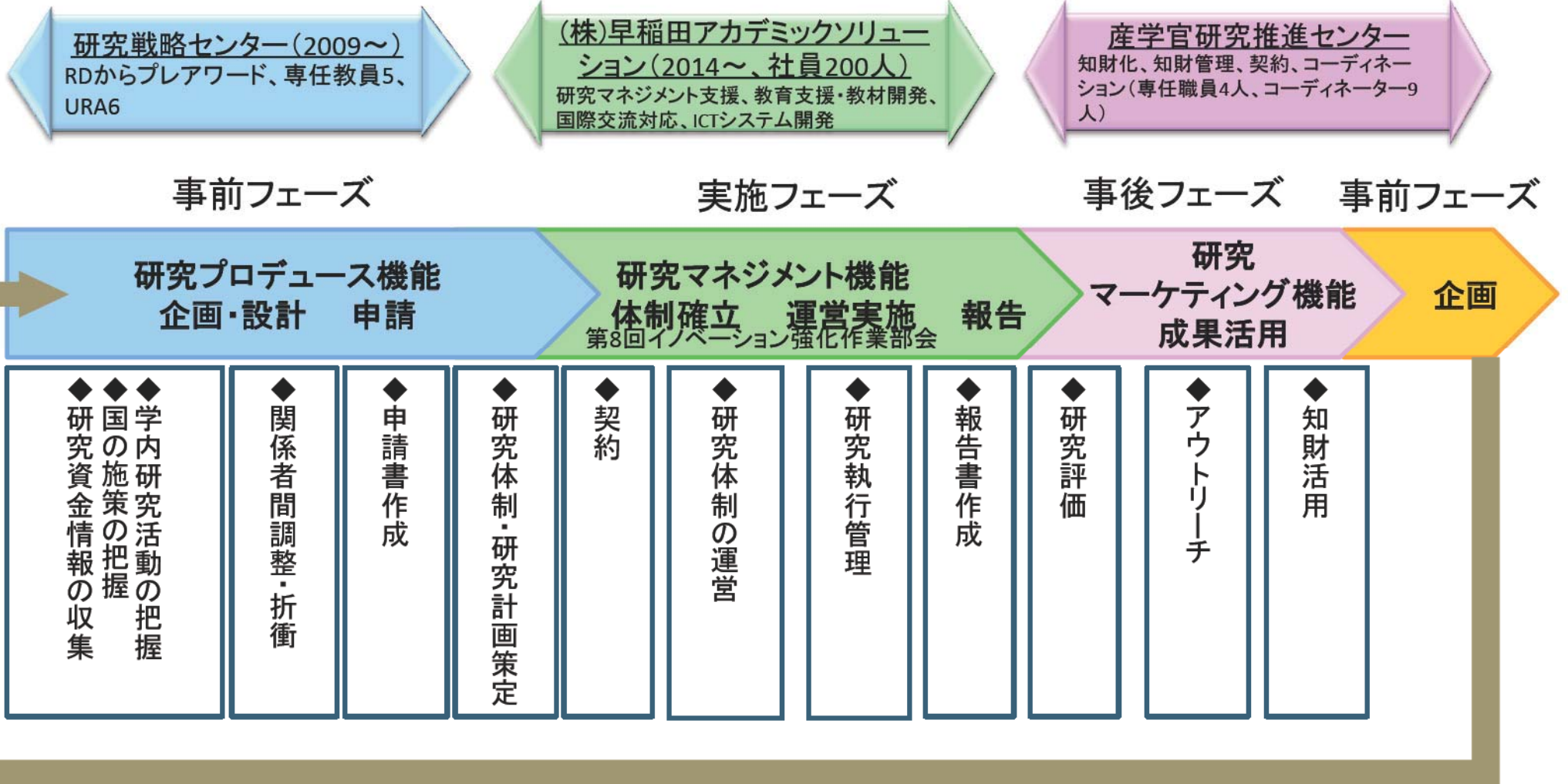
社会に内在する根源的な問題を掘り起し、それらの複合課題に対して学内外の力を結集する研究チームを組織して課題を解き、社会の未来へと繋げる大型研究(社会課題接続型研究)に挑戦する。国内外の企業・独法等研究者の参加を促す人事制度の整備、社会課題接続型研究に博士学生・ポスドクが参画する仕組みの強化と実践知人材の輩出などに取り組む。

方針3. 国際化推進: 国際共同研究への一層の推進、国際人材の活用

国際共同研究の更なる推進のためのインセンティブを整備する。戦略的に在外研究を促進する新在外研究制度やダブルアポイントメント制度を制定し、また外国人研究者がチーム型研究に参画しやすい仕組みや支援体制を整備する。



早稲田大学のリサーチアドミニストレーションシステム



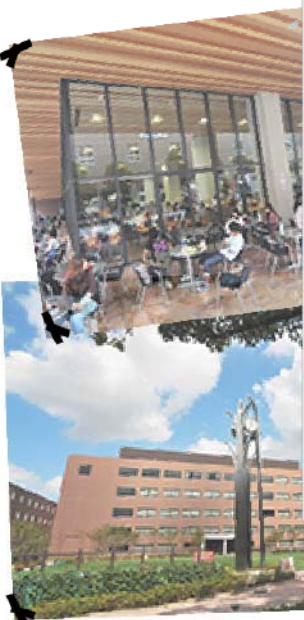
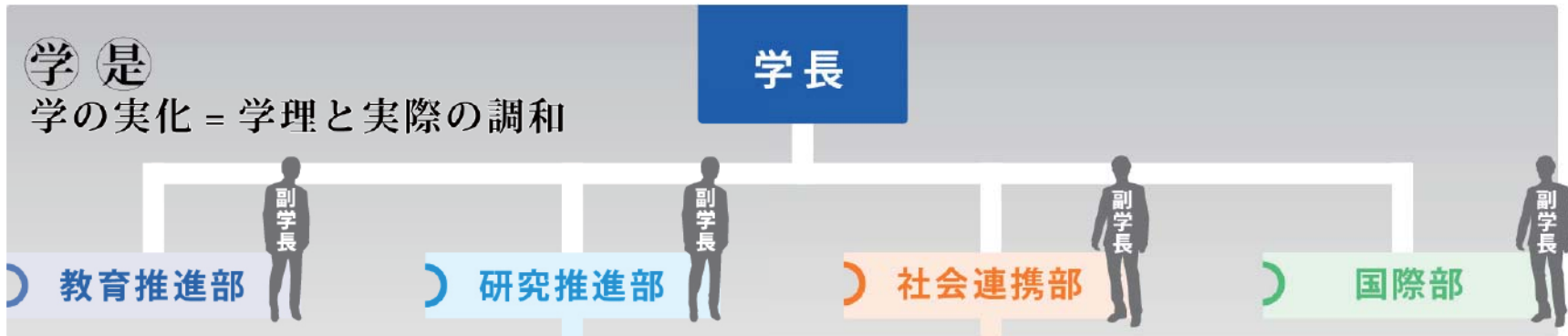
関西大学におけるイノベーション創出に 向けたURAの取り組み

2014年9月18日
関西大学 シニアURA
角谷 賢二



関西大学

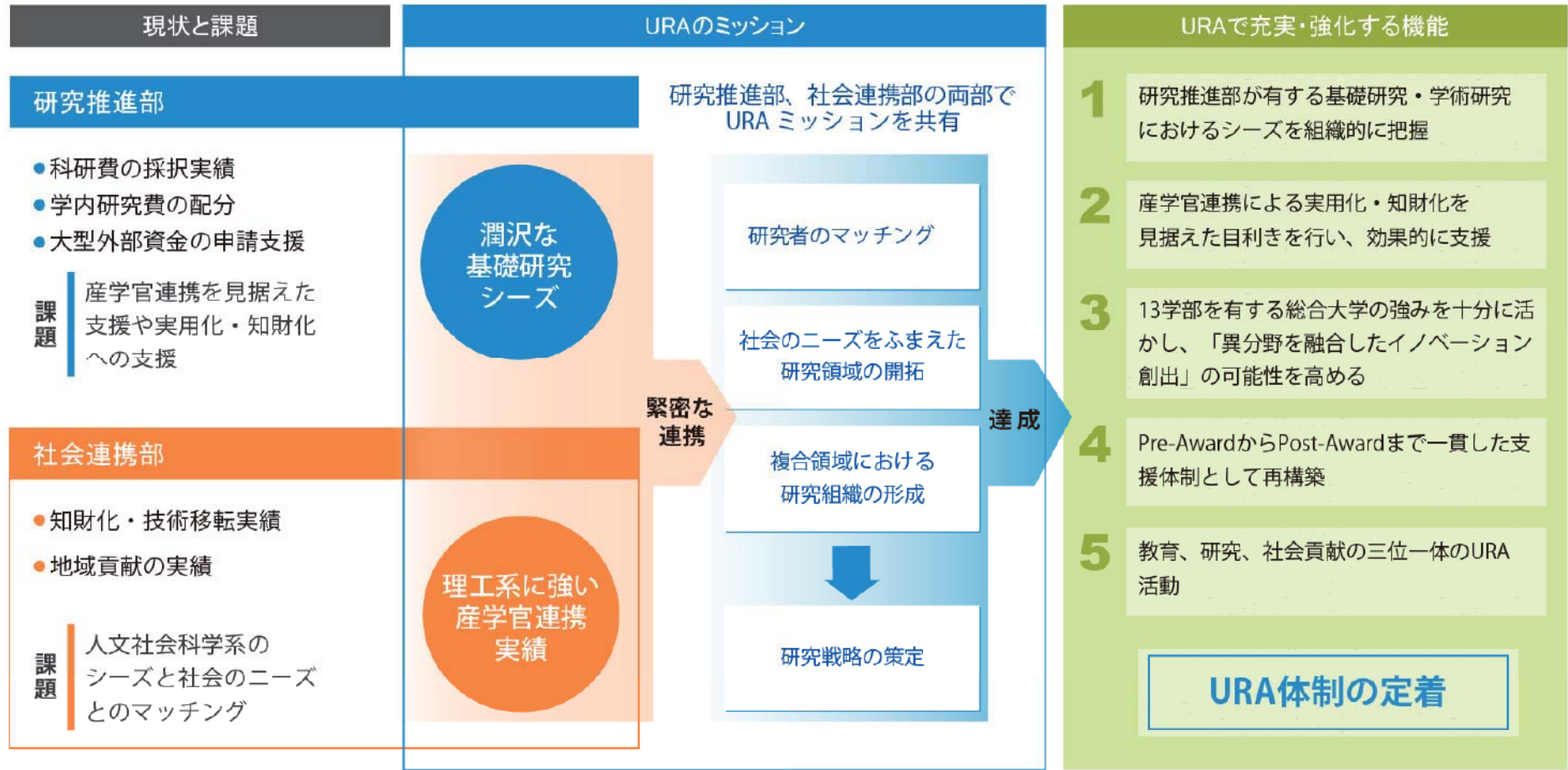
研究推進・産学官連携推進体制



学 是

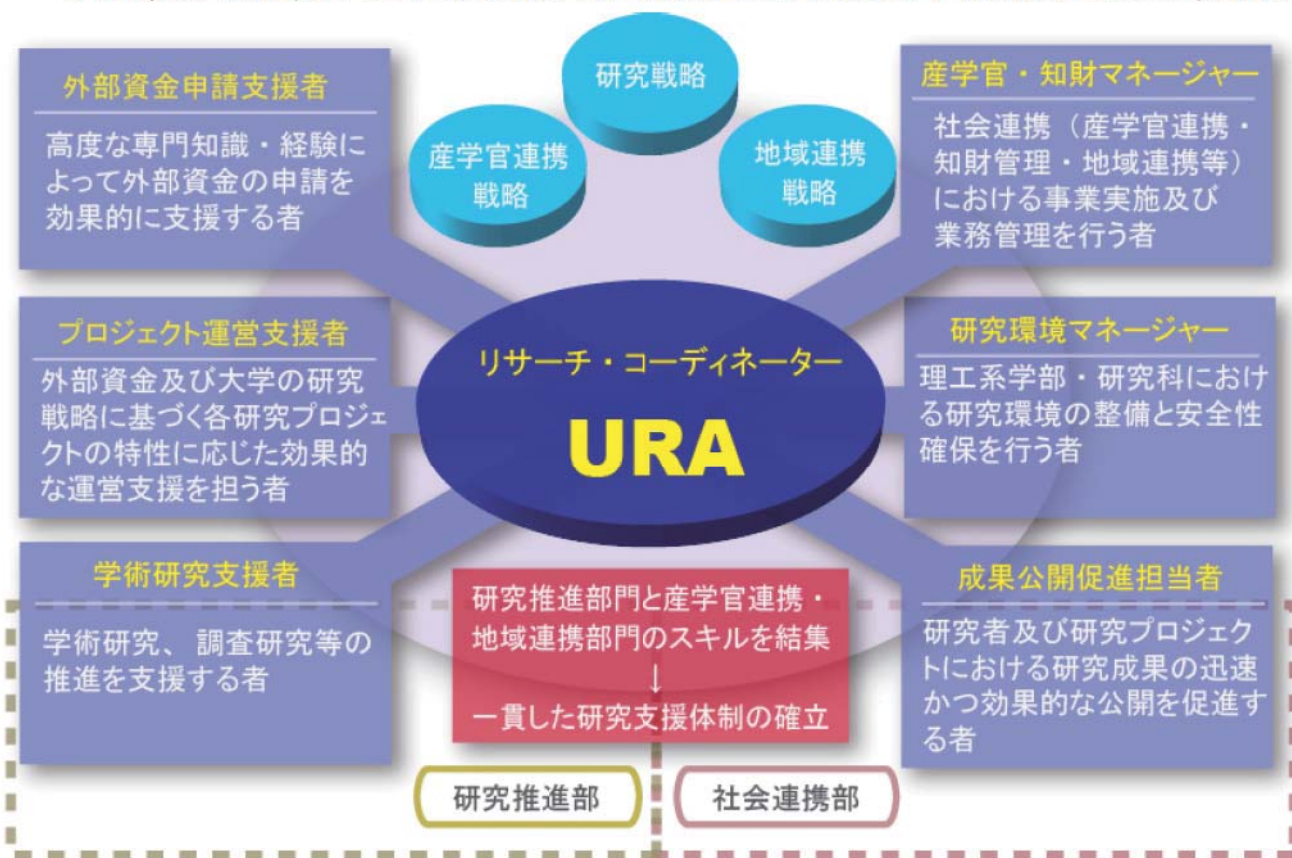
学の実化 = 学理と実際の調和

URA体制の推進(2012年度以降～)



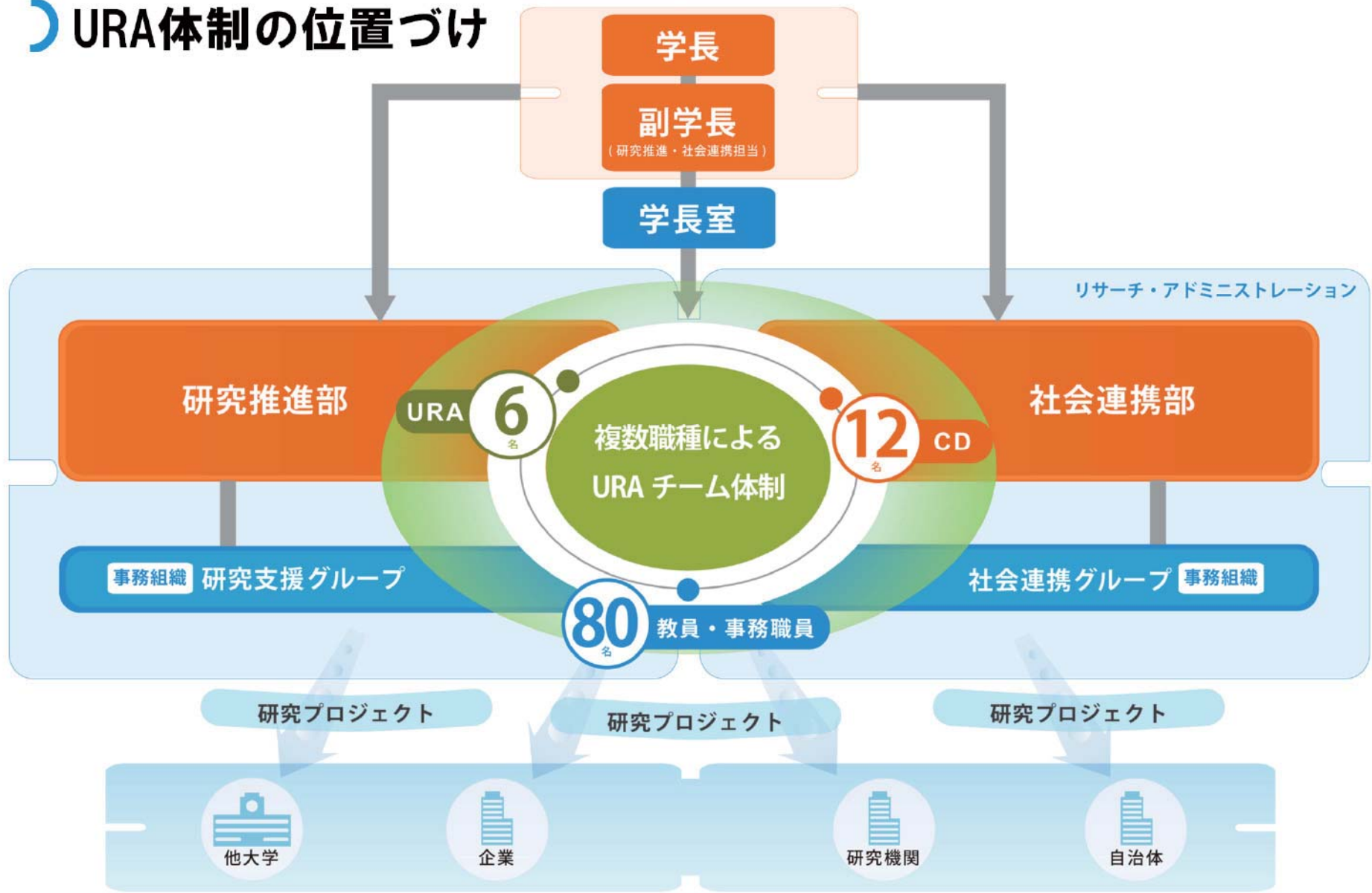
課題を解決するための機能的な支援体制の設計

研究支援ニーズの調査結果をもとに、支援者に求められる能力や技能を6群の職務区分に分類

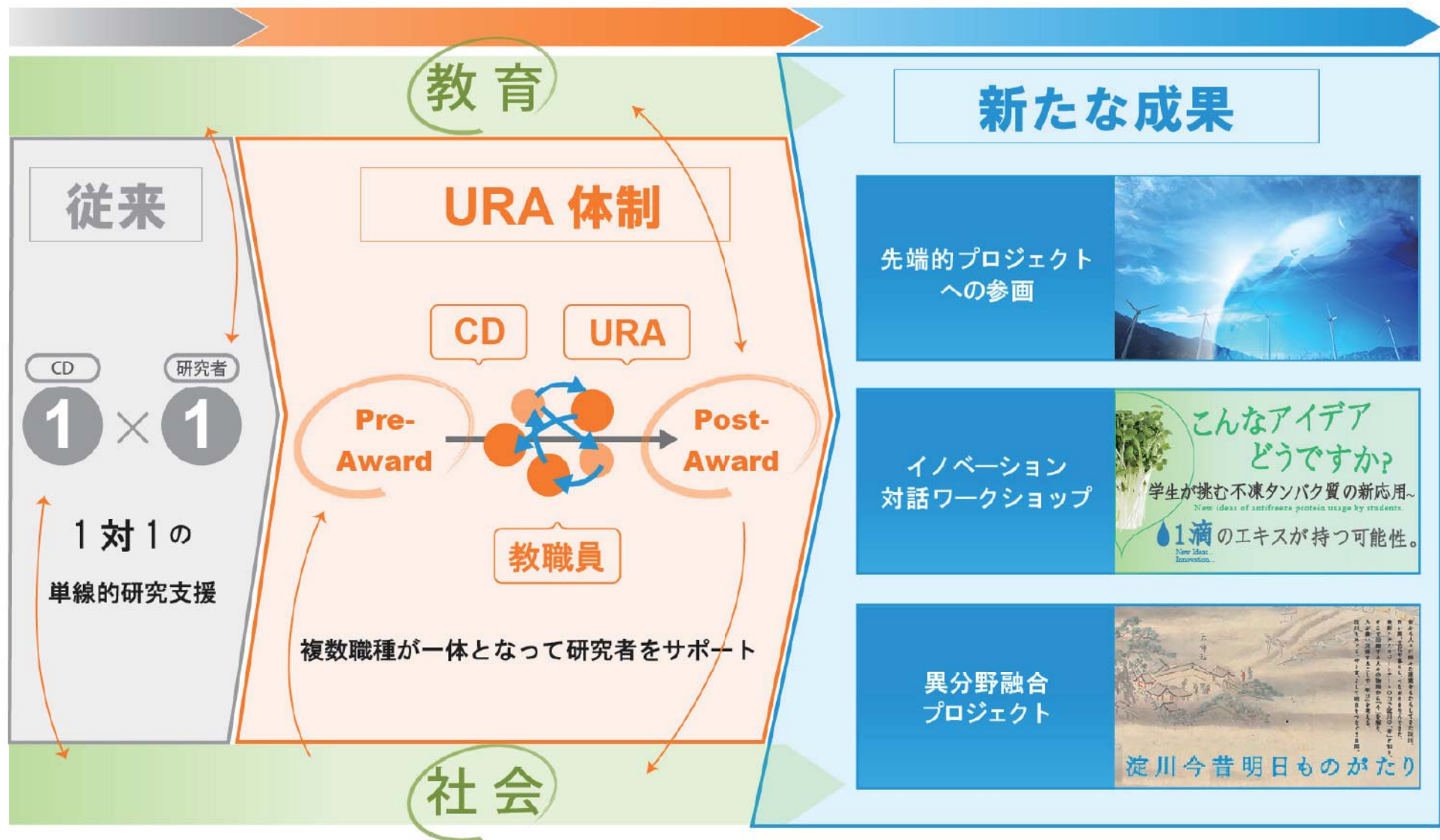


- 高度な専門性を有する支援者をリサーチ・コーディネーター（URA）として戦略的に6名配置（シニア研究企画アドバイザー1名、統計分析・情報収集担当1名、プロジェクト運営担当3名、作図デザイナー1名）
- 学内で従来より研究支援業務に従事している職員を、職能別に体系化することで、上記職務区分の機能を網羅的に推進。

URA体制の位置づけ



URA体制の導入効果



イノベーション創出に向けた活動の具体例1(イノベーション対話ワークショップ)

関西大学ビジネスイノベーションセンター(仮称)



メインファシリテーター 商学部教授 川上 智子



専従 URA



テーマファシリテーター
ビジネス系教員、技術系教員



事務スタッフ



ビジネス系学部 [ニーズ]

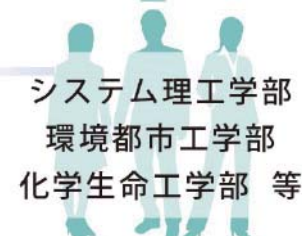
[シーズ] 技術系学部

実績
KUBIC
CORES
ロボットプログラム



対話

スタートアップWS
プログレスWS
ファイナルWS



実績
受託研究
共同研究



社会連携部
副学長(社会連携担当)

産学官連携コーディネーター(CD)

実施

連携

研究推進部
副学長(研究推進担当)

リサーチアドミニストレーター(URA)

イノベーション創出に向けた活動の具体例1(イノベーション対話ワークショップ) 16

イノベーション対話ワークショップ

こんなアイデアどうですか?

～学生が挑む不凍タンパク質の新応用～

New ideas of antifreeze protein usage by students.

2013.12.25 Wed 15:30 OPEN 14:45 CLOSE 18:35

グランフロント大阪タワーC(北館)7階
「Osaka Innovation Hub(大阪イノベーションハブ)」

入場
無料

募集

企業関係者(主に冷凍食品を扱う企業等)、研究者、学生、その他所属・年齢問わず産学連携、ビジネスプランコンペティションに関心のある方 **50名程度**

今回の応用テーマ

離乳食、コンビニ弁当、生花、スイーツ、お弁当用カットフルーツ、宇宙食、冷凍カレー、etc.



不凍タンパク質で 冷凍保存後も 冷凍前の品質を維持

不凍タンパク質は、カイワレ大根などから抽出でき、水が凍ってしまう氷点下の温度域で氷結晶に結合してその成長を妨げる能力を持つ物質です。

例えば、食品にごく微量添加することにより、冷凍しても品質劣化しにくくなる特徴があります。



1滴のエキスが持つ可能性。
New Ideas...
Innovation...

主催：関西大学
共催：大阪市都市計画局



イノベーション対話ワークショップ



平成 25年
12/25

こんなアイデアどうですか?

～学生が挑む不凍タンパク質の新応用～

ALL FREE
全ての人が参加無料で



概要

イノベーションの可能性を秘めた技術シーズ「不凍タンパク質技術」をテーマに、学生10チーム(50名)によるビジネスプランを発表します。これら学生のアイデアを参加者との対話を通じ、「使えるアイデア」としてブラッシュアップし、事業化の道を探ります。なお、当日は、参加者の皆様からの投票によりチャンピオンを決定します。

【メインファシリテーター】	【シーズ提供】	【コメンテーター】	トーマツベンチャーサポート(株)
関西大学 商学部 教授 川上 智子	関西大学 化学生命工学部 教授 河原 秀久	(株)カネカ 食品事業部 幹部職 寶川 厚司 *不凍タンパク質の供給メーカー	公認会計士 伊東 昌一

プログラム

- 15:30 開会
(主催者挨拶) 荒木 孝治(関西大学 商学部 教授)
(大阪市挨拶) 吉川 正見(大阪市都市計画局 理事)
- 15:50 シーズ説明「不凍タンパク質による冷凍保存新技術」
(シーズ説明) 河原 秀久(関西大学 化学生命工学部 教授)
- 16:05 <商学部学生によるアイデア発表・フロアとの対話>
荒木孝治ゼミ、川上智子ゼミ、西岡健一ゼミ 計10チーム
前半5チーム
- 17:05 (休憩10分)
- 17:15 後半5チーム
- 18:15 チャンピオン選考(参加者による投票形式)及び全体講評
- 18:30 閉会の挨拶
角谷 賢二(関西大学学長室シニア URA)
- 18:35 名刺交換会

お問合せ・お申込み

参加ご希望の方は、下記アドレスに件名を「12月25日参加希望」として必要事項(①氏名・②所属・③メールアドレス・④電話番号)を記載のうえお申込みください。(定員に達し次第受付を終了させていただく場合があります。)

【申込アドレス】 kenkyushien@ml.kandai.jp

*受付時にお名前を記載いたします。

関西大学 研究支援グループ・社会連携グループ
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
TEL: 06-6368-1784 FAX: 06-6388-9544 kenkyushien@ml.kandai.jp



会場

グランフロント大阪タワーC(北館)7階
「Osaka Innovation Hub(大阪イノベーションハブ)」
大阪府北区大塚町 3番 1号
HP: <http://www.innovation-osaka.jp/ja/>
JR大阪駅より徒歩 10分



淀川今昔明日 ものがたり

平成26年2月22日(土)〜23日(日)
11時〜17時 於: 関テレ扇町スクエア 参加無料

主催: 関西テレビ、関西大学、後援: 公益財団法人関西・大阪21世紀協会
協力: 日立製作所、NPO法人CoTo.hana 協賛: 大阪水上バス株式会社
企画: 関西大学S.T.E.P.、関西テレビCS.R推進部

関西大学と関西テレビがつくる、淀川をめぐる時を超えた「つながり」

昔から人々に様々な恩恵をもたらしてきた淀川。長い間、文化や暮らし、つながりを生んできた。最新テクノロジーとアートの力で淀川の「昔」を知り、そこで活動する人々の物語から「今」を解り、人が集い交流することで「明日」を考える。淀川をめぐる、今と昔、そして明日をつなぐ2日間。

*****L&A*****
大岡春樹(1860年〜1763年)
江戸時代中期の大坂の絵師。師は不明だが、狩野派を学んだ。マンネリ化した狩野気味の狩野派をよそよそしく大膽な構図と個性豊かな筆致で作品を創り、高い評価を得た。絵巻の技法に巧み、母子の涙と離れを筆端とし、度々自らも人氣を得た。
代表作「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」
関西大学図書館蔵

元禄時代の大坂に、若冲よりも面白く、応挙よりも雄大な画家がいた。

関西大学秘蔵の約8メートルに及ぶ絵巻物「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(大岡春樹作)を日立製作所の超高精細デジタル化技術を用いて映像化。関西テレビの新施設4K16面マルチ大画面で世界初公開します。さらに、AR(拡張現実)の技術を用いたタブレット端末やゲームも登場。淀川の今を生きる団体の活動紹介のほか、ぬり絵やパルーンアートなど、家族全員が楽しめるコンテンツも盛りだくさんの2日間です。

輪殿ヨシ原研究所
絵巻の巻物にオキのロードスターをシボ用で複製、複製を水辺の風景の保全のモニタリングに活用することでの複製を目的とした活動を行っています。

スナックコーリー、絵巻複製をヨシを使った新感覚デザインのグッズの展示・販売をします。22日「アトリエ May.17.23日「絵巻複製展」

大阪天満宮
大塚祭には、若狭川から淀川結由で運ばれた舟を飾った舟を並べ、船頭は、船頭は淀川川舟舟に乗りながら、舟の神様の御祭りをしています。

舟祭りの舟として、舟の展示をします。

関西大学総合情報学部 林武文研究室
関西大学STEFおよびVOLCANOプロジェクトと共同で、関西大学が誇る文化資産のデジタル化と情報発信を行っています。

Google Earthによる淀川上流のワイルド川コース、スマートフォンで撮影したARコンテンツ、絵巻複製をテーマとしたゲームコンテンツを展示します。

大阪水上バス株式会社
かつて淀川を運航していた三十石船を再現し、はちけんやから枚方まで約40kmを毎日11時と17時に行っています。

三十石船の魅力発見! 「淀川歴史館」の展示をします!

カッパ研究会
2001年に設立。水文化を調査・研究し、書籍として発行などを進めて、持続可能な持続型社会を創りあげていくことを目的とした団体です。

淀川を美しくすることを掲げ、淀川のカッパの紹介をします!

京の川の恵みを活かす会
大塚川から鴨川へ通する上流アオの恵みを伝へ、水辺環境や水辺環境など、多くの活動からなる民間活動のネットワークです。

淀川の魚の展示と、お魚のワークショップをします!

近畿地方整備局 淀川河川事務所
淀川、宇治川、桂川、木津川の自然環境の保全を行っています。

淀川地域の歴史や自然に関するパネル展示をします!

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
私たちは「文化と経済は車の両輪である」という理念の下、産官学に創発性と協力を求め、世界に誇れる地域をつくるための活動を行っています。

「淀川地域の歴史や自然に関するパネル展示」を行います!

日立製作所
関西大学が「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」をデジタル化した技術を活用しています。

DIS (Digital Imaging Systems) のカメラで撮影した映像を、その技術を活かして活用しています!

HITACHI Inspire the Next

淀川管内河川レンジャー
淀川・宇治川・桂川・木津川をフィールドに自然のみなさんとのつながりをつくり、自然環境の保全と活動の推進を行っています。

淀川100年「ふれ、レンジャー」活動の紹介のほか、「ヨシ作り」、「お魚クイズ」、「お魚絵画コンクール」、「お魚パズル」、「お魚ゲーム」の企画をします!

淀川河川公園事務所
淀川に沿って京都市から大阪府までの約37kmにわたり40地区にある園地の管理・運営をしています。

淀川公園についてのパネル展示を行います!

関西テレビ放送
子どもたちと一緒にさまざまな社会問題に取り組み、CSR活動を推進しています。

淀川にまつわる貴重なドキュメンタリー映像を上映します!

16面の大画面マルチステージで、様々なコンテンツを上映!!

22 11:00 - 11:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
11:30 - 12:00 参加体験紹介コーナー①
12:00 - 12:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
12:30 - 13:00 参加体験紹介コーナー②
13:00 - 13:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
13:30 - 14:00 参加体験紹介コーナー③
14:00 - 14:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
14:30 - 15:00 参加体験紹介コーナー④
15:00 - 15:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
15:30 - 16:00 絵巻複製 展示コーナー
16:00 - 17:00 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映

23 11:00 - 11:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
11:30 - 12:00 参加体験紹介コーナー①
12:00 - 12:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
12:30 - 13:00 参加体験紹介コーナー②
13:00 - 13:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
13:30 - 14:00 中央本館特別上映「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」解説
14:00 - 14:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
14:30 - 15:00 中央本館特別上映「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」解説
15:00 - 15:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
15:30 - 16:00 中央本館特別上映「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」解説
16:00 - 16:30 「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」(複製)上映
16:30 - 17:00 中央本館特別上映「浪花及瀬川沿岸名勝図巻」解説

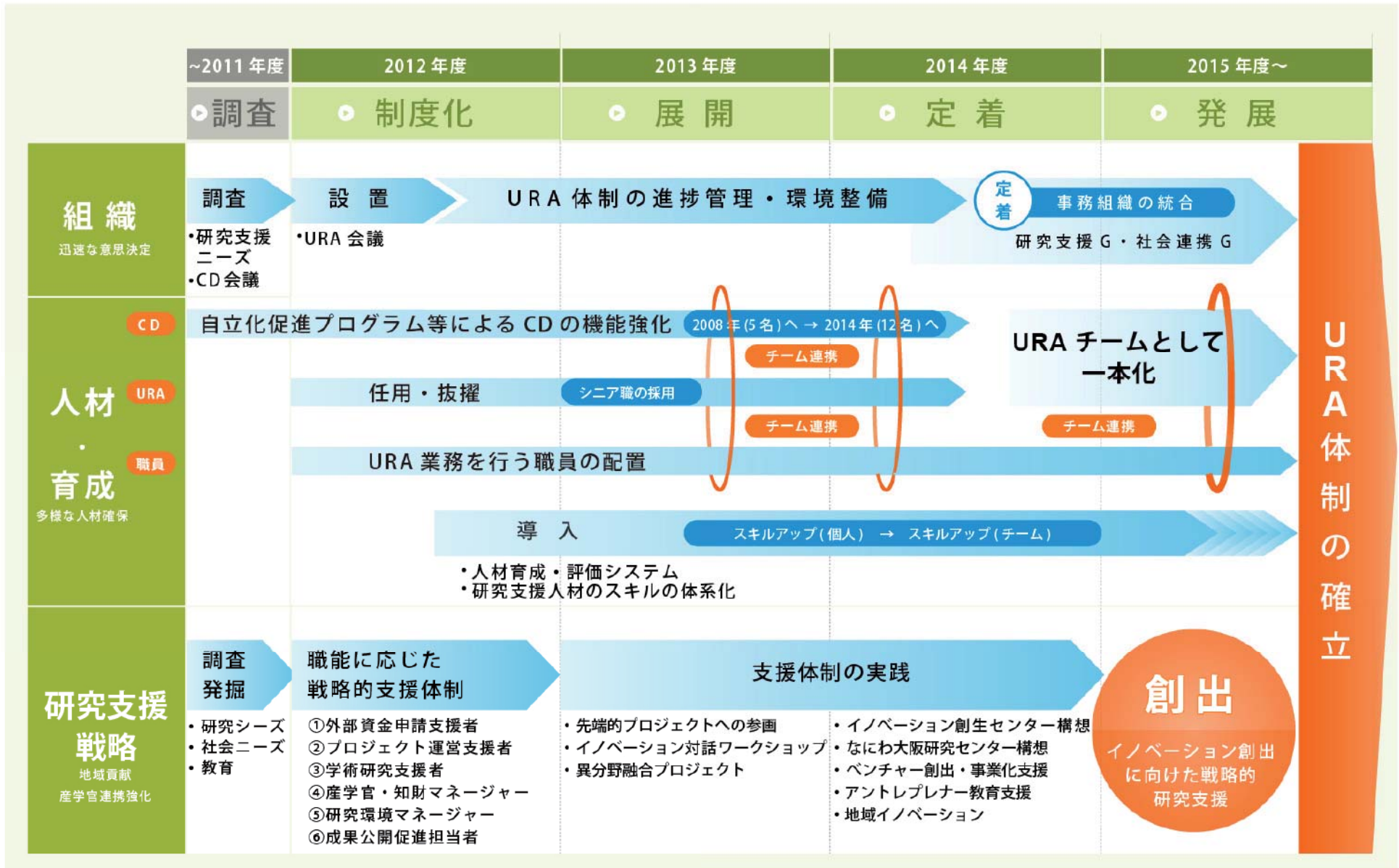
22 宗邦会 + 井原寺子(童)

23 中野伸生
1979年、関西大学文学部教授。現在、文学部国文学研究センター教授。大阪府立大学で「現代文芸研究」を専攻し、博士号取得。著書「現代文芸研究」等がある。

関西大学と関西テレビがつくる、淀川をめぐる時を超えた「つながり」
淀川今昔明日ものがたり
平成26年2月22日(土)〜23日(日) 11時〜17時 於: 関テレ扇町スクエア 参加無料

主催: 関西テレビ、関西大学 後援: 公益財団法人関西・大阪21世紀協会 協力: 日立製作所、NPO法人CoTo.hana
協賛: 大阪水上バス株式会社 企画: 関西大学S.T.E.P.、関西テレビCS.R推進部

URA体制導入から確立までのロードマップ



）今後の課題：成功に向けての課題は何か

本学の取り組みの特徴

- ・独自の取り組みであること。(URAの増員、URAチーム体制など)
- ・URA、CDと事務職員を分けるのではなく、URAチームとして活動。
(事務職員等を加えることでスキルの高い支援人材を広める)
- ・段階的な、組織の統合や職種、人員増を実施。
(実情に合わせてながら、まずは現状のリソースを最大限活用)
- ・CDとURAの協働がうまくいっていること。
(URA活動の中に従来のCDの活動も含まれることを丁寧に説明)
- ・教育、研究、社会貢献の三位一体のURA活動。
(URA活動により研究力を高め、教育の質向上につなげる)

御清聴ありがとうございました。

【第4回URAシンポジウム/第6回RA研究会合同大会 2014.9.18 北海道大学】



第6回RA研究会セッション：

私大に研究力強化への新たな取組

東海大学における 研究推進支援体制の変遷

&

～大学経営を支えるURA人財の
仕事観と教職協働の実践～

2014.09.18

東海大学 研究推進部

田中好雄

東海大学の研究活動、研究推進支援体制の変遷

rev201409



1935 無装荷ケーブルの発明 **(日本で最初の産官学共同プロジェクト!)**

1942 東海大学創立

1960 FM東海開局、実験放送による通信教育開始

1966 東海大学工業所有権取扱規程制定 (機関帰属)

知的財産取扱を1966年度には職務発明規程を国内の大学としてははじめて導入

1974 情報技術センター開設 **(技術移転機関機能)**

1976 **東海大学総合研究機構設立** (研究全体の統括)

研究計画部 (事務組織) 設置 ; **研究計画課**, **研究業務課** (各校舎)

78~□エネルギー問題 : 太陽・風力・波浪・潮力、地熱、原子力等

□食糧問題 : 海洋・農業における食料資源の研究、開発、水産大規模養殖の研究、農牧畜資源の研究



1997 研究推進本部開設 (後に研究開発本部~2003)

1998 研究推進部開設 (湘南校舎)

2001 「学校法人東海大学知的財産憲章・知的財産権取扱規程」制定

2003 **知的財産戦略本部**設置 (文科省事業)

2008 学内間の有機的な連携の促進、戦略的・機能的産官学連携推進していくため

研究支援・知的財産本部、**産官学連携センター**設置

東海大学『産学連携プロジェクト 健康医科学研究』スタート



2012~ **研究推進部** (改称)、**研究計画課**新設 (2013~)

理学部研究施設(18号館) & 2013~ 工学部研究施設(19号館)の建設 ⇒ 地域研究拠点

東海大学の研究力強化に向けた 研究活動状況調査

【2013年度 第二次報告】 サマリー

「論文情報」・「科研費採択状況」・「外部研究費取得状況」
による研究活動分析と、
今後の東海大学の“研究力強化”に向けた取り組み

外部研究費取得状況

出典: 湘南校舎外部研究費管理システム
対象: 研究成果レポート対象250名中、107名
内容: 2002年～2011年までにシステムに新規に登録された科
研費を除く外部研究費について、その金額を集計

科研費採択状況

出典: KAKEN科学研究費助成事業データベース
対象: 研究成果レポート対象者250名
内容: 2002年～2011年に採択された課題について、種目によ
る重み付けを行い得点を集計 ※中断・廃止等は考慮しない

論文情報

出典: エルゼビア社 研究成果レポート
対象: 250名(全校舎)
内容: 2002年～2011年までにScopusに登録された論文情報に
基づき、各情報を集計。各情報には本学着任前の情報も
含まれる。

ディスカッション資料として

～研究推進・URA人財の仕事観と

多様な教職協働～

様々な大学ランキング・評価, 研究力評価, 世界ランキング……

研究力評価 ≡ Σ (論文, 公的研究費・科研費, 受託研究費等)

科研費 (競争的補助金)

と 私立大学の基盤的補助金 (経常費補助金)

大学	円	大学	円
1 東京大	23,183,151,000	36 静岡大	906,750,000
2 京都大	14,512,164,000	37 富山大	891,410,000
3 大阪大	11,877,930,000	38 山形大	810,420,000
4 東北大	10,482,745,000	39 岐阜大	805,220,000
5 名古屋大	7,606,310,000	40 順天堂大	791,700,000
6 九州大	7,603,001,000	41 名古屋市立大	768,950,000
7 北海道大	6,445,660,000	42 山梨大	764,920,000
8 東京工業大	4,699,890,000	43 三重大	703,495,000
9 筑波大	3,972,280,000	44 東海大	702,650,000
10 慶應義塾大	3,495,440,000	45 一橋大	685,880,000
11 広島大	3,147,963,000	46 近畿大	672,880,000
12 神戸大	3,044,160,000	47 京都府立医科大	667,940,000
13 早稲田大	2,763,020,000	48 福井大	663,130,000
14 千葉大	2,369,770,000	49 鳥取大	652,990,000
15 岡山大	2,230,410,000	50 埼玉大	650,390,000
16 熊本大	1,924,910,000	51 北里大	636,220,000
17 東京医科歯科大	1,906,970,000	52 名古屋工業大	620,750,000
18 金沢大	1,803,360,000	53 同志社大	619,060,000
19 新潟大	1,627,080,000	54 兵庫県立大	603,330,000
20 長崎大	1,446,250,000	55 宮崎大	596,570,000
21 徳島大	1,330,030,000	56 弘前大	593,060,000
22 愛媛大	1,175,525,000	57 明治大	583,231,000
23 立命館大			
24 信州大			
25 首都大学東京			
26 大阪市立大			
27 日本大			
28 大阪府立大			
29 山口大			
30 東京農工大			
31 横浜市立大			
32 横浜国立大			
33 群馬大			
34 鹿児島大			
35 東京理科大			

大学	千円	大学	千円	大学	千円
1 慶應義塾大	9,608,890	36 神奈川大	1,799,458	71 大阪工業大	895,322
2 早稲田大	9,528,288	37 兵庫医科大	1,735,024	72 北海道医療大	889,380
3 日本大	9,348,573	38 創価大	1,651,096	73 甲南大	865,915
4 東海大	6,890,800	39 青山学院大	1,622,071	74 武庫川女子大	853,681
5 立命館大	5,642,413	40 名城大	1,582,592	75 日本福祉大	850,433
6 順天堂大	5,295,758	41 関西医科大	1,552,195	76 東京薬科大	849,919
7 近畿大	4,970,525	42 愛知学院大	1,524,659	77 成蹊大	848,503
8 明治大	4,898,675	43 京都産業大	1,437,308	78 佛教大	840,404
9 昭和大	4,316,372	44 関東学院大	1,395,151	79 神奈川工科大	835,181
10 北里大	4,181,995	45 中部大	1,300,578	80 大阪産業大	834,653
11 東京女子医科大	3,936,372	46 愛知医科大	1,291,860	81 立命館アジア太平洋大	829,694
12 福岡大	3,902,807	47 大阪医科大	1,289,465	82 徳島文理大	817,190
13 東京慈恵会医科大	3,396,313	48 芝浦工業大	1,288,468	83 玉川大	805,483
14 法政大	3,321,147	49 東北学院大	1,286,823	84 工学院大	804,402
15 関西大	3,236,953	50 金沢医科大	1,223,367	85 武蔵野美術大	801,171
16 東京理科大	3,210,227	51 専修大	1,207,317	86 東京都市大	792,214
17 日本医科大	3,204,509	52 金沢工業大	1,207,118	87 聖徳大	789,063
18 中央大	3,145,559	53 学習院大	1,177,504	88 東北福祉大	786,643
19 自治医科大	2,844,435	54 九州産業大	1,138,444	89 帝京平成大	763,745
20 関西学院大	2,753,508	55 千葉工業大	1,071,969	90 拓殖大	744,500
21 帝京大	2,653,867	56 明星大	1,061,787	91 京都造形芸術大	734,784
22 同志社大	2,616,510	57 国士館大	1,049,279	92 大東文化大	730,585
23 久留米大	2,480,206	58 東京歯科大	1,030,186	93 広島国際大	724,899
					722,196
					718,140
					714,527
					705,048
					701,083
					699,804
					691,501
					675,056
					669,558
					654,932
					652,964
					641,977

科研費上位:

東京大学, 京都大学, 大阪大学, 東北大学,
名古屋大学, 九州大学, 北海道大学, 東京工業大学な・
⇒国立大学が上位を独占

事務職員力が優れている大学（大学事務局長の評価）



事務職員力が優れている

総合		総合	
大学	人	大学	人
1 明治大	198	31 日本大	14
2 立命館大	189	広島経済大	14
3 金沢工業大	133	広島修道大	14
4 早稲田大	99	34 秋田大	13
5 近畿大	81	神奈川大	13
6 東洋大	72	帝京大	13
7 同志社大	60	福岡工業大	13
8 国際教養大	53	武庫川女子大	13
9 慶応義塾大	51	39 追手門学院大	12
10 中京大	43	関西外国語大	12
11 関西大	41	順天堂大	12
立教大	41	安田女子大	12
13 法政大	38	43 山形大	11
14 龍谷大	31	愛知大	11
15 芝浦工業大	30	国学院大	11
武蔵野大	30	国際基督教大	11
名城大	30	創価大	11
18 東京大	29	東海大	11
19 関西学院大	24	豊田工業大	11
20 上智大	22	明治学院大	11
東京理科大	22	51 岡山理科大	10
22 青山学院大	21	52 大阪大	9
23 九州大	20	東北大	9
24 福井大	19	横浜国立大	9
25 京都産業大	18	大阪経済大	9
東京電機大	18	56 名古屋大	8
27 金沢星稜大	17	国際医療福祉大	8
28 中央大	16	摂南大	8
29 京都大	15	千葉工業大	8
愛知学院大	15	明星大	8

ランキングの見方

2013年12月、全国の国公私立大学740校の事務局長（相当者）あてにアンケートを送付。14年1月上旬までに回答のあった493校分を集計した。アンケートでは、次の項目において「職員力」が優れている（生かされている）と思われる大学を尋ねた。①経営戦略、②財務管理、資産運用、③入試、④広報、⑤進路、キャリア教育。以上に該当する大学をそれぞれ4校まで記入してもらい、その件数でランキングを作った。総合は①～④の合計

事務職員力が優れている大学

総合（経営戦略＋財務管理、資産運用＋入試、広報＋進路、キャリア教育）※			
大学	人	大学	人
1 明治大	198	31 日本大	14
2 立命館大	189	広島経済大	14
3 金沢工業大	133	広島修道大	14
4 早稲田大	99	34 秋田大	13
5 近畿大	81	神奈川大	13
6 東洋大	72	帝京大	13
7 同志社大	60	福岡工業大	13
8 国際教養大	53	武庫川女子大	13
9 慶応義塾大	51	39 追手門学院大	12
10 中京大	43	関西外国語大	12
11 関西大	41	順天堂大	12
立教大	41	安田女子大	12
13 法政大	38	43 山形大	11
14 龍谷大	31	愛知大	11
15 芝浦工業大	30	国学院大	11
武蔵野大	30	国際基督教大	11
名城大	30	創価大	11
18 東京大	29	東海大	11
19 関西学院大	24	豊田工業大	11
20 上智大	22	明治学院大	11
東京理科大	22	51 岡山理科大	10
22 青山学院大	21	52 大阪大	9
23 九州大	20	東北大	9
24 福井大	19	横浜国立大	9
25 京都産業大	18	大阪経済大	9
東京電機大	18	56 名古屋大	8
27 金沢星稜大	17	国際医療福祉大	8
28 中央大	16	摂南大	8
29 京都大	15	千葉工業大	8
愛知学院大	15	明星大	8

2013年12月 全国国公私立大学事務局長（相当者）490校のアンケート
 ※ 研究推進支援力は、職員力の対象外？

事務職員力上位：

1. 明治大学
2. 立命館大学
3. 金沢工業大学
4. 早稲田大学
5. 近畿大学
6. 東洋大学
7. 同志社学
8. 国際教養大学
9. 慶応大学
10. 中京大学
11. 関西大学

20以内ほぼ私大！

国公立は、国際教養大学⑧、
 東京大学⑱の2校

“科研費配分総額” と “事務職員力” の上位大学



科研費：

- ① 東京大学
- ② 京都大学
- ③ 大阪大学
- ④ 東北大学
- ⑤ 名古屋大学
- ⑥ 九州大学
- ⑦ 北海道大学
- ⑧ 東京工業大学

国立大学が上位を独占

事務職員力：

- ① 明治大学
- ② 立命館大学
- ③ 金沢工業大学
- ④ 早稲田大学
- ⑤ 近畿大学
- ⑥ 東洋大学
- ⑦ 同志社学
- ⑧ 国際教育大学
- ⑨ 慶応大学
- ⑩ 中京大学 ⑪ 関西大学・立教大学

私立大学が上位を占める

(20以内；国際教養大,東京大学)

事務職員力 = (経営戦略) + (財務管理、資産運用)
+ (入試、広報) + (進路、キャリア教育)

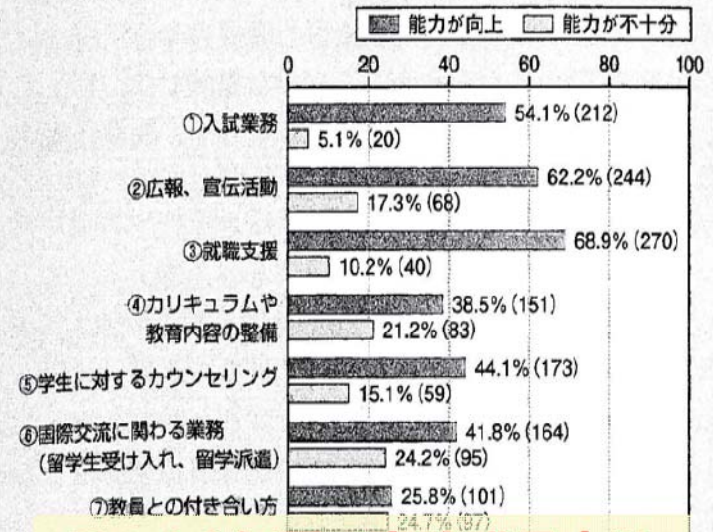
事務職員力が不十分な業務

= 研究費獲得, 産学連携, 情報収集・分析

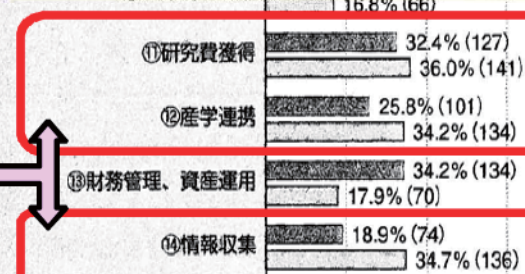
⇒ **研究推進(支援)力は、職員力の対象外??**

● 事務職員的能力に対する評価

「貴大学で、この10年での事務職員の変化についてお尋ねします。事務職員的能力が向上した項目、能力が不十分だとと思われる項目を選び、番号を列記してください」



この10年間で事務職員力は向上しているが、不十分な業務は？



【私立学校の果たす重要な役割】

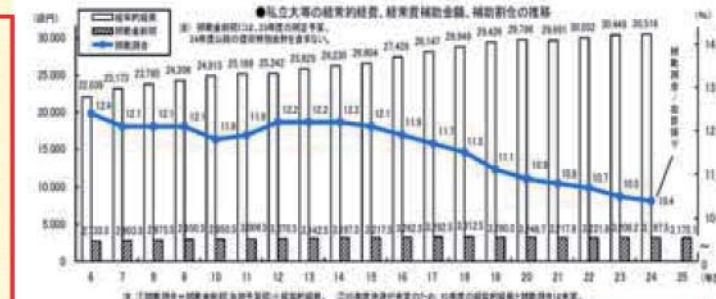
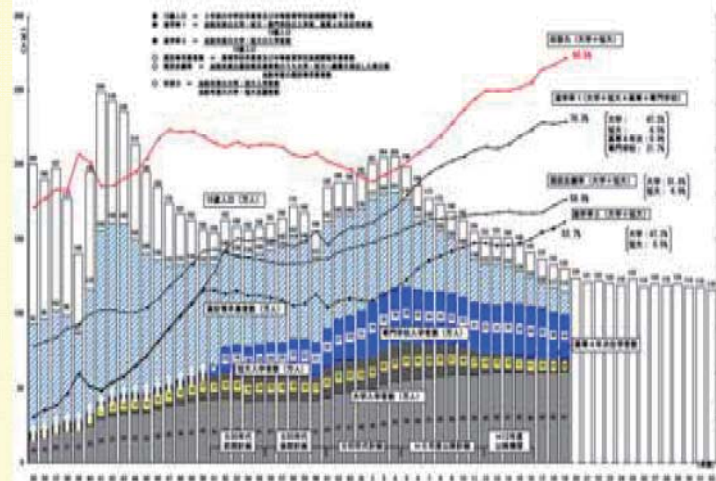
私立大学の学校数は76.7%(597/778校, 国立86,公立95校(平成22年5月1日現在))、我が国の学校教育の発展に大きく貢献しています。また、近年ますます国際化・高度情報化する社会の中で、各私立学校には、多様化する国民のニーズ(需要)に応じた特色ある教育研究の推進が求められており、それぞれが建学の精神に基づく個性豊かな活動を積極的に展開し、我が国の学校教育の発展にとって、質・量両面にわたり重要な役割を果たしています。

私学を取り巻く経営環境は、近年、少子化・グローバル化等の影響もあり大変厳しい状況にあります。

各学校法人も危機感を持ち、新しい時代の要請に応えた学部・学科の見直しや、経費の削減など経営の効率化等を実施していますが、経営状況が悪化して入学定員を満たしていない私立大学は265校(46.5%)を占めています。その中で、大多数の私立大学の人件費は、(消費)支出の40%~50%以上を占めています。

私立大学改革, 大学経営において、教職員の意識改革, 職員力の向上は、人件費の削減に繋がる重要施策の一つです。 (人件費支出比率が高い 40%~50数%)

18歳人口及び高等教育機関への入学者数・進学率等の推移



私立大学の経常的経費・補助金, 補助割合の推移

【私立（多数）大学の果たす使命・重要な役割】

教員， 職員， 『第三の職種？』 URA

多様な協働の実践！ 持続可能なURA職に向けて

□各大学の研究力強化，研究推進体制は？

- ① **教員**の研究力＋**事務職員**の研究推進力＋**専門人材**(URA)
 - or② **教員**の研究力＋**事務職員**の〃＋**専門人材**(CN, PM, TP等※)
 - or③ **教員**の研究力＋**事務職員**の研究推進力
- ≡ **教職RA協働**or**教職協働**or**教職専協働** ※専門(シニア, ,若手)

国立大学 <small>(世界の上位を目指す)</small>	東大＝ 京大＝ 東北大＝	琉球大＝	(参加予定者) 慶応 2名 京大 1名+1 関大 1名 東京女子医科大学 2名 順天堂大学 1名 同志社 2名 早稲田 2名 東北大学病院1名 国立極地研究所 1名 東京大学 1名 琉球大学 1名 農業生物資源研究所1名 神戸大 1名 日大 1名 ほか
私立大学 <small>(世界の上位を目指す！)</small> <small>(を目指す！)</small>	立命＝ 早大＝ 慶応＝ 理科大＝ 関大＝ 同志社＝ 東海大＝ 教職RA協働 ＋ 専	日大＝ 順天堂大＝ 東京女子大＝ 大＝ 大＝	
大学経営改革⇒(事務)職員力の向上			

教員（研究者）、大学職員、URA人財の仕事観

URA人財が（私立）大学で 天職として活躍するために・・・

多様な大学の使命・日本の競争力強化・国際貢献の実践に向けて



URA人財の専門スキル・資質と仕事観

3つの仕事観 (生きがい！人生の幸福度！)

①Job : 自立して生計を立てる仕事

②Career: プロフェッショナルとしてのスキルやキャリア知識や経験を蓄積できる仕事

③Calling: 天職 ⇒ 大学の使命・日本の競争力強化・国際貢献の実践

⇒大学経営・運営の中に研究を位置づけ、戦略化する仕事・人財

※スキル標準については、「URAを育成・確保するシステムの整備(スキル標準の作成)成果報告書」(平成26年5月国立大学法人東京大学)参照
スキル標準は、URA業務に必要とされる実務能力、すなわち、実際の業務遂行に必要な能力の標準。

スキル標準に含まれないもの:URA組織のマネジメント・改革への関わり等。大学改革と教員の意識改革を先導するために自ら変化できる能力！

■この「J・C・C」のバランスが最も良い形を持つ組織が本人にとって良い職場ということになります。

大学改革提言誌「Nasic Release 社会のために役立つ人材を建学の理念で養成する大西晴樹 明治学院大学学長」第22号(2011年5月1日発行)より。

ビジネスパーソンの仕事観

①内因的仕事観: やりがい, 成長重視

②功利的仕事観: 経済的自立, 肩書重視

③規範的仕事観: 社会/会社のために役立つ(社会/会社規範)

第4回URAシンポジウム/第6回RA研究会合同大会 2014.9.18 北海道大学

第6回RA研究会セッション：
私大の研究力強化への新たな取組み

同志社大学の研究支援体制と URAの役割

同志社大学 研究開発推進機構
リサーチ・アドミニストレーションセンター
URA 石田 貴美子



同志社大学の産官学連携体制

研究開発推進機構

学 長

研究推進担当副学長

研究開発推進機構長

研究センター(群)

- インフラストラクチャー研究センター
- 電磁エネルギー応用研究センター
- 高等教育・学生研究センター
- 文化遺産情報科学研究センター
- 生体医療材料研究センター
- 犯罪学研究センター
- 関係論的システムデザイン研究センター
- ソーシャル・イノベーション研究センター
- 国際比較法文化研究センター
- アフガニスタン平和・開発研究センター
- 古都ローマ・京都歴史遺産研究センター
- コリア研究センター
- イノベティブコンピューティング研究センター
- モビリティ研究センター
- ニューロセンシング・バイオナビゲーション研究センター
- 国際ビジネス法務研究センター
- 実証に基づく心理トリートメント研究センター
- 波動エレクトロニクス研究センター
- 高次神経機能障害研究センター
- 先端複合材料研究センター
- 神経疾患研究センター
- 新エネルギー変換材料研究センター
- 管径方向分配現象研究センター
- 治療システム研究センター
- ナノ・バイオサイエンス研究センター
- 市民外交研究センター
- 先端バイオメカニクス研究センター
- 創造経済研究センター
- アディポサイト&マッスルサイエンス研究センター
- 体力医科学研究センター
- <奄美-沖縄-琉球>研究センター
- 超音波医科学研究センター
- こころの科学研究センター
- 高機能微粒子研究センター

(2014年4月1日現在)

寄付教育研究プロジェクト(群)

リサーチ・アドミニストレーションセンター

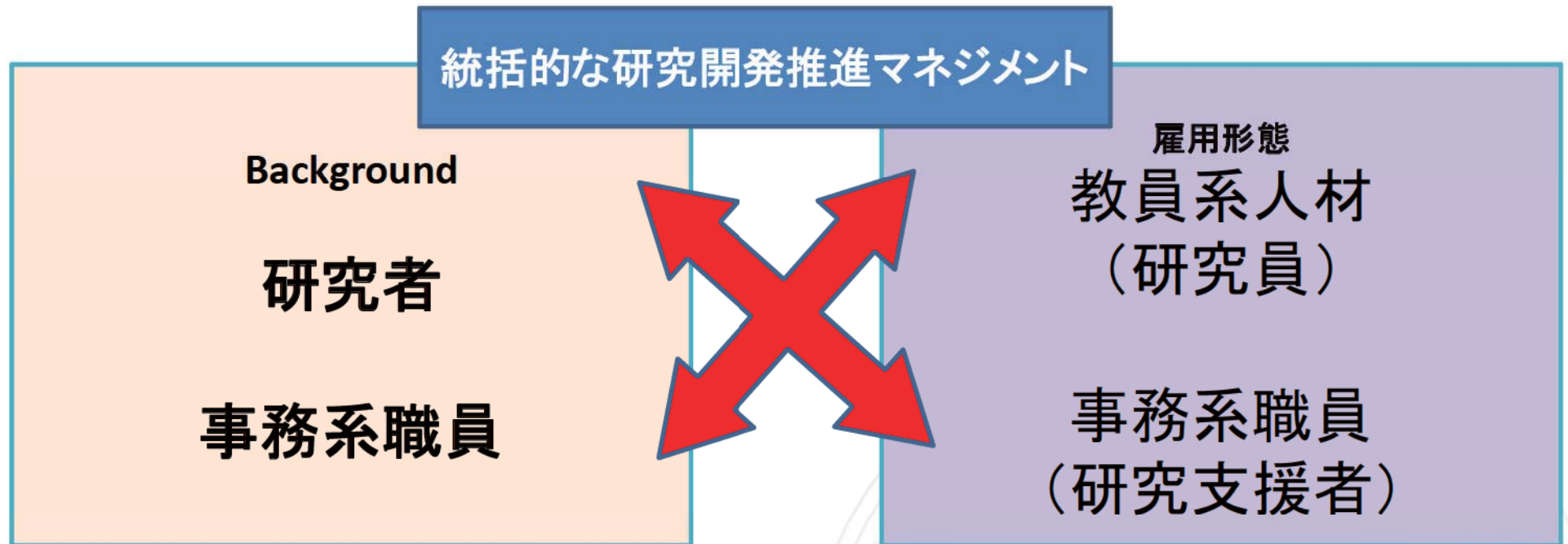
リエゾンオフィス

知的財産センター

- 炎症・再生医療研究センター
- アンチエイジングリサーチセンター
- 赤ちゃん学研究センター
- 糖化ストレス研究センター
- 天然物基盤創薬研究センター (2014年1月1日現在)

- ### 高等研究教育機構
- 一神教学際研究センター
 - 技術・企業・国際競争力研究センター
 - エネルギー変換研究センター
 - ライフリスク研究センター
- (2014年1月1日現在)

リサーチ・アドミニストレーションセンター



プレアワード

- ◎研究費配分機関からの情報収集と分析、説明会の開催
- ◎学内研究者の研究内容および潜在的研究能力の把握
- ◎補助事業とのマッチング（提案）
- ◎研究連携のコーディネーション（交渉）
- ◎研究プロジェクトの立案・申請指導
- ◎申請書作成補助やヒヤリングへのアドバイス

ポストアワード

- ◎研究の進捗相談および進捗状況管理
- ◎報告書作成支援および研究活動・研究成果の広報と発信
- ◎研究プロジェクトの会計・財務・設備管理
- ◎知的財産の創出支援（知的CDへの橋渡し）
- ◎産業界との連携支援（産学CDへの橋渡し）

意識改革も重要な業務だが

導入時の学内の認識

- ・URAは国立大学、一部の先進的な私立大学が整備するもの
- ・国の資金で運営するものでは

- ・既存の組織で研究支援が成り立っているのでは？



できることを示して、重要性を理解してもらう

 即戦力でなければ

ご清聴ありがとうございました。

